

[吉賀町まちづくり計画・総合戦略 評価シート]

I 第2次吉賀町まちづくり計画後期評価及び 第2期吉賀町総合戦略（R4～R7年度）評価

(基本目標1：快適で安全に暮らせるまちづくり)	
第1節 自然環境の保全と活用（P28～30）	
施策	①高津川との共生による環境づくり
【関連する総合戦略】 なし（※本節は、まちづくり計画の評価のみを行います。）	

評価項目：I-1-1

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状（実現度）	一部実現できている
現状（具体）	毎年、環境美化活動や海岸漂着物研修を実施している。
外部要因	国土交通省の水質調査において、令和6年・令和7年と「水質が最も良好な河川」に高津川が選ばれている。
内部要因	・人材育成不足。 ・財政状況の悪化。
施策が機能しているか（評価）※1	一部機能している
理由（機能）	環境教育と環境美化活動が実施されている。
方向性※2	維持
理由	高津川との共存は必要不可欠であり、保全を推進していく必要がある。

※1：機能している・一部機能している・機能していない の3段階

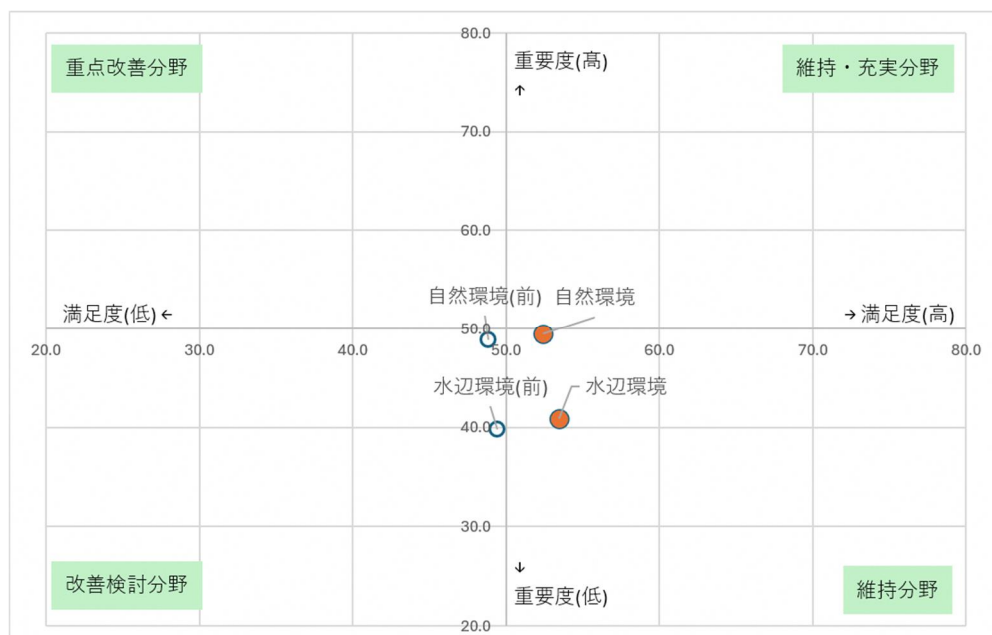
※2：強化・維持・縮小の3段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
II-6.水辺に親しむことのできる環境	0.68	-0.32	1.00	4.00	4.23	-0.23
II-8.自然環境の保全に関する取り組み	0.46	-0.44	0.90	5.28	5.54	-0.26
平均	0.57	-0.38	0.95	4.64	4.89	-0.24

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
—	—	—	—

4. 評価結果（一覧）

評価項目	結果	コメント
満足度数	0.57	点数では前回比+0.95 と上昇している。
重要度数	4.64	点数では前回比-0.24 と低下している。
満足度・重要度偏差値	維持分野	関連する項目は、全体として維持分野に位置している。満足度は上昇し、重要度は横ばいとなっている。
KPI	—	—

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の 4 段階）

評価	コメント
概ね適切	環境教育や環境美化活動などの取り組みは継続して実施されており、住民満足度数・偏差値ともに向上していることから、施策は概ね適切に機能していると評価できる。一方で、高津川との共生に向けた取り組みは継続的な推進が必要であり、更なる充実が望まれる。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標 1 : 快適で安全に暮らせるまちづくり)	
第 2 節 環境に配慮した社会の形成 (P31~32)	
施策	①身近なところからはじめるエネルギー対策の推進 ②廃棄物の減量化・再資源化の推進
【関連する総合戦略】 ※本評価は、下記総合戦略「施策」の効果検証を兼ねる。 ■基本目標 2 : 暮らしの場として多くのひとに選ばれる (P29) ・施策 4 : 環境に配慮した社会の形成 (1) 脱炭素、再生可能エネルギー導入の促進 (2) ごみの減量化・再資源化の推進	

評価項目 : I-1-2

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状 (実現度)	一部実現できている
現状 (具体)	・太陽光発電事業及び風力発電事業の設置に関する条例を制定した。公共施設の LED 化など省エネ対策は一部実施している。 ・廃棄物総排出量は減少傾向にあるものの 1 人あたりのごみ排出量は増加傾向にある。
外部要因	・環境への配慮を入札等へ考慮する取り組みは実現できていない。 ・使い捨て商品の普及や外食に伴う食品ロスが増加している。
内部要因	・財政事情により環境に配慮した機器更新や、太陽光パネルの設置などの対応が進んでいない。 ・情報発信や分別指導の不足。
施策が機能しているか (評価) ※1	一部機能している
理由 (機能)	・条例の施行により、再生可能エネルギーを導入する際の地域との調和や環境への配慮に努めているが、再生可能エネルギーの導入推進や省エネルギー対策に向けた取り組みは未だ途上にある。 ・廃棄物対策については情報発信や分別指導により改善しているが、全体的には不十分な点も多い。
方向性 ※2	維持
理由	・地域と調和し環境に配慮した再生可能エネルギーの取り組みに関しては維持し、条例に基づいて対応する。再生可能エネルギーの導入推進や省エネルギー対策に向けた取り組みについては検討を進める必要がある。 ・ごみの減量化・再資源化を行っていかなければ、処理費用の増加や資源の枯渇を招くため、今後も継続した取り組みが必要である。

※1 : 機能している・一部機能している・機能していない の 3 段階

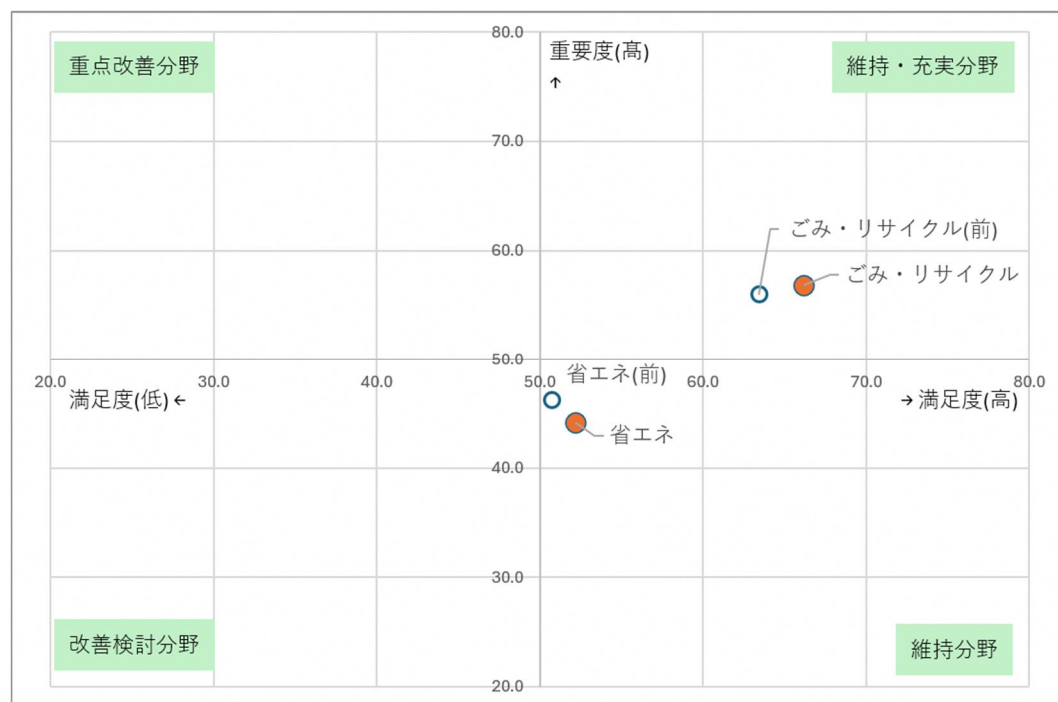
※2 : 強化・維持・縮小の 3 段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
II-1.ゴミの減量化・リサイクルに関する取り組み	3.33	2.54	0.79	6.36	6.57	-0.21
II-2.省エネルギーの推進やクリーン・エネルギーの活用	0.41	-0.05	0.46	4.49	5.15	-0.66
平均	1.87	1.25	0.63	5.43	5.86	-0.44

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
吉賀町木質バイオマスストーブの設置補助件数	10 件／年	3 件/年	C (未達成)
吉賀町太陽光発電システム等導入促進補助件数	5 件／年	3 件/年	C (未達成)
1 人 1 日あたりの可燃ごみ排出量	454g	583g	C (未達成)

4. 評価結果 (一覧)

評価項目	結果	コメント
満足度数	1.87	点数では前回比+0.63 と上昇している。
重要度数	5.43	点数では前回比-0.44 と低下している。
満足度・重要度偏差値	維持・充実、維持	関連する項目は、全体として維持・充実分野と維持分野に位置している。満足度はやや上昇、重要度は概ね横ばいとなっている。
KPI	C (未達成)	いずれの項目も目標を達成しておらず、KPI 全体として未達成となっている。

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の4段階）

評価	コメント
改善が必要	条例制定や省エネ対策など一定の取り組みは進められているものの、KPIは未達成であり、施策の効果は十分とはいえない。財政面の課題や情報発信・普及啓発の充実など、施策の進め方について改善が必要である。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標 1 : 快適で安全に暮らせるまちづくり)	
第 3 節 社会環境の整備 (P33~37)	
施策	①安心して暮らせる地域づくり ②人にやさしい生活環境づくり
【関連する総合戦略】 ※本評価は、下記総合戦略「施策」の効果検証を兼ねる。 ■基本目標 4 : だれもが住みやすいまちをつくる (P34) ・施策 1 : 交通や情報通信基盤の整備 (1) 交通や情報通信基盤の整備	

評価項目 : I -1-3

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状 (実現度)	一部実現できている
現状 (具体)	【防災】 ・防災訓練を毎年実施し、防災知識の普及啓発に取り組むとともに、自主防災組織の組織化を進めている。また防犯・交通安全の推進に取り組んでいる。 【道路】 ・道路実延長 (m) 223,589m ・面積 (㎡) 1,280,213 ㎡ ・改良済延長 (m) 143,060m ・舗装済延長 (m) 167,553m ・歩道延長 (m) 3,664m 【水道】 ・簡易水道 ・飲料水供給 →上水道へ変更 5,105 人 【下水道】 人口 5,339 人 処理人口 3,937 人 普及率 73.7% 内公共下水道 処理人口 2,268 人 接続人口 1,747 人 内農業集落排水 処理人口 471 人 接続人口 407 人 内浄化槽処理人口 1,198 人 【農業集落排水】 ・処理人口 471 人 ・接続人口 407 人 浄化槽処理人口 1,065 人 処理人口合計 3,937 人 普及率 73.7% 【住宅】 旧耐震基準の住棟は一部を除いて建替が完了した。 【公共交通】 六日市地域循環線やデマンドバスを導入しているが、利用者の減少や運転手不足、移動ニーズの高い時間帯での運行空白等が課題となっている。 【ゴミ対策】 ごみ袋・収集運搬体制等の整備は実施されている。一方で、負担金などの処理経費が増加しており、設備更新が課題。ソフト面では、分別ルールに反し

	たごみの排出が一定数ある。 【情報通信環境】 ケーブルテレビ加入世帯が減少している。 携帯電話の電波状況改善要望があり、県・通信会社への相談を行っている。
外部要因	・大雨や台風などの災害リスクが高まっている。 ・人口減少により住宅を整備しても空家が目立つ。 ・転入に伴うゴミの分別方法の認知。 ・人口減少、高齢化。 ・物価高騰によるコストの増加。 ・交通事業者の運転手不足。 ・独居世帯の増加。 ・民間事業者等による通信サービスの変化。 ・携帯電話の料金プランが複雑化している。 ・通信環境の整備には携帯電話の通信会社による対応が必要である。
内部要因	・地区によって防災意識に差があり、防災への関心が十分に浸透していない地域も見られる。 ・財政状況を要因とする事業の停滞。 ・情報発信、住民への周知不足。 ・公共交通に関するアンケート等情報収集は行っているが、結果の分析および活用への対応が十分でない。 ・ケーブルテレビ新規設置費用補助を実施しているが、人口、世帯の減少の影響が大きい。
施策が機能しているか (評価) ※1	一部機能している
理由 (機能)	・防災体制は概ね機能しているものの、地区による防災意識の差が見られるため、防災意識の向上に向けた取り組みの強化が必要である。また、交通安全啓発活動や防犯活動について関係機関との連携を強化し、より一層の周知を図る必要がある。 ・住民の生活道の確保、上下水道ライフラインは確保できている。 ・住宅について、旧耐震基準の住棟は一部を除いて建替が完了したが、老朽化した住棟が多く、現在の水準の住棟へ改修工事が必要。また、併せて解体も実施し、需要と供給のバランスの取れた戸数とする必要がある。 ・ゴミの収集運搬体制や処理設備の更新などは実施出来ているが、負担金は増加傾向であり、今後の体制等に影響がないように対策を講じる必要がある。 ・一部の施策では成果が見られるが、全体としての効果は限定的である。
方向性※2	維持
理由	・地域ごとの実情に応じた啓発活動や防災訓練の実施による防災体制の充実を図る必要がある。 ・関係機関と連携した継続的な交通安全対策の推進及び防犯対策の周知を通じて、交通安全意識の向上と防犯体制の強化に取り組む必要がある。 ・セーフティーネット住宅としての役割のある町営住宅を一定程度の水準で整備（維持管理）する必要がある。

	・道路環境、上下水道の整備については、現状のストックと会計のバランスを取りながら安心安全で安定したサービスを維持する。 ・公共交通の担い手確保や町民ニーズに合った運行編成等の課題に対応する必要がある。 ・生活の中で、家庭ごみは必ず発生するため、環境衛生に配慮し、適正な処理を継続する必要がある。 ・情報通信環境は独居高齢者の見守り、オンラインでの診療、防災情報の共有、移動負担の軽減など、健康で安心して暮らせるまちに直結するため維持する必要がある。
--	---

※1：機能している・一部機能している・機能していない の3段階

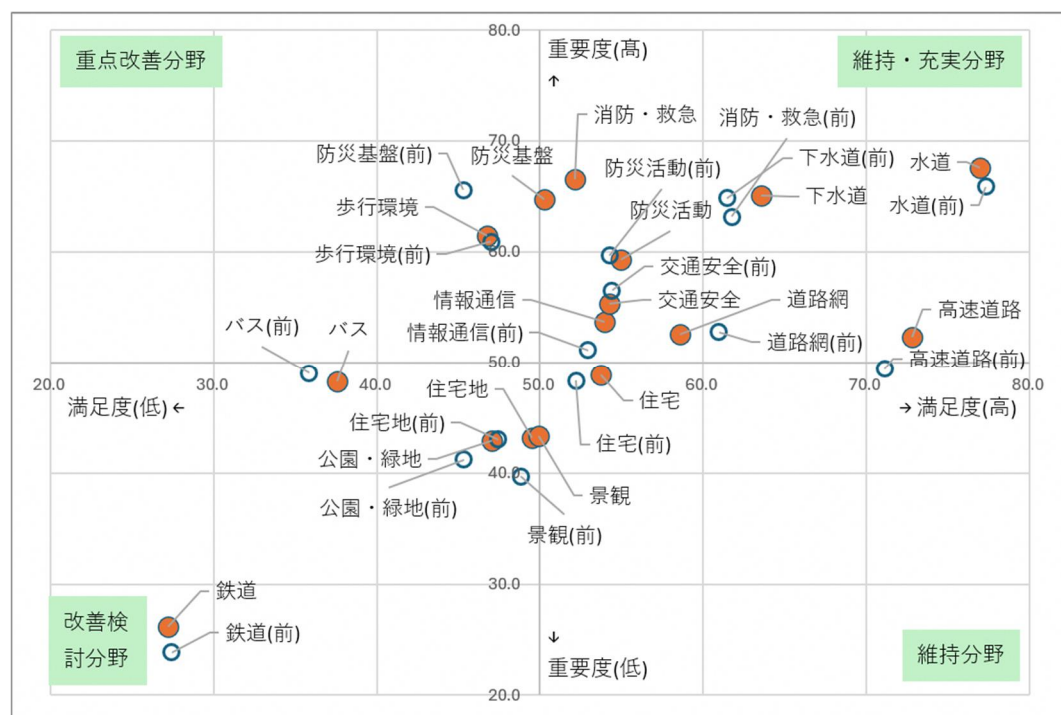
※2：強化・維持・縮小の3段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
I-1.町内の道路網の整備	1.75	2.04	-0.29	5.74	6.11	-0.37
I-2.高速道路など広域的な道路網	4.72	4.11	0.61	5.69	5.62	0.07
I-3.鉄道の利用のしやすさ	-4.81	-4.81	0.00	1.82	1.91	-0.09
I-4.バスの利用のしやすさ	-2.63	-3.09	0.46	5.10	5.56	-0.46
I-5.情報通信回線網	0.78	0.40	0.38	5.90	5.87	0.03
I-8.住宅地の整備・供給	-0.15	-0.72	0.57	4.34	4.69	-0.35
I-9.暮らしやすい住宅の確保	0.74	0.25	0.49	5.19	5.46	-0.27
II-3.安全でおいしい水が安定して供給される環境*	5.60	5.38	0.22	7.96	8.01	-0.05
II-4.下水道など、生活排水が衛生的に処理される環境	2.79	2.14	0.65	7.59	7.86	-0.27
II-5.公園や広場、街路樹などの地域環境	-0.66	-1.15	0.49	4.31	4.43	-0.12
II-7.街の景観	-0.05	-0.44	0.39	4.37	4.21	0.16
III-1.災害に強い基盤整備	0.02	-1.16	1.18	7.53	7.97	-0.44
III-2.地域での防災組織や防災活動	1.00	0.67	0.33	6.74	7.11	-0.37
III-3.消防・救急に関する取り組み	0.41	2.20	-1.79	7.80	7.62	0.18
III-5.安全で安心して歩行できる道路	-0.72	-0.81	0.09	7.06	7.29	-0.23
III-6.交通安全意識の向上のための取り組み	0.85	0.70	0.15	6.15	6.65	-0.50
平均	0.60	0.36	0.25	5.83	6.02	-0.19

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
公共交通利用者数	30,000 人	24,081 人	C (未達成)

4. 評価結果（一覧）

評価項目	結果	コメント
満足度数	0.60	点数では前回比+0.25 と上昇している。
重要度数	5.83	点数では前回比-0.19 と低下している。
満足度・重要度偏差値	維持・充実、一部改善検討	関連する項目は、維持・充実分野に多く位置し、一部は改善検討分野にも位置している。満足度は向上、重要度は概ね横ばいとなっている。
KPI	C (未達成)	KPI は未達成となっている。

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の4段階）

評価	コメント
概ね適切	全体的に満足度数・偏差値ともに向上し、関連する項目は維持・充実分野に多く位置しており、防災・交通安全対策や公共交通、生活環境の維持など、住民が安心して暮らせる環境の充実に向けた継続的な取り組みが求められる。ただし、KPI は未達成となっており、一部の施策においては取り組みの検討が必要である。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標 2 : 健康で安心して暮らせるまちづくり)	
第 1 節 保健の充実 (P38~45)	
施策	①安心して出産・子育てができる環境づくり ②歯の健康づくり ③心の健康づくり ④まめな体づくり
【関連する総合戦略】※本評価は、下記総合戦略「施策」の効果検証を兼ねる。 ■基本目標 3 : 結婚・出産・子育ての希望をかなえる (P31) ・施策 2 : 出産への支援 (1) 出産への支援 (基本目標 2 第 3 節にも掲載) ■基本目標 4 : だれもが住みやすいまちをつくる (P36) ・施策 3 : 地域福祉等の充実 (2) 高齢者支援	

評価項目 : I -2-1

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状 (実現度)	一部実現できている
現状 (具体)	・子育て環境においては子ども家庭センターと母子保健が連携し、切れ目のない支援を行っている。 ・第 3 次いきいき 21 吉賀町健康づくり計画に基づいて健康づくりを推進しているが、地区ごとに健康づくりを進める取り組みに課題がある。
外部要因	地区ごとに健康づくりに取り組むことのできる組織がない。
内部要因	地域に出向いて健康教室などに取り組む体制が構築できていない。
施策が機能しているか (評価) ※1	一部機能している
理由 (機能)	一部の施策では成果が見られるが、全体としての効果は限定的である。
方向性※2	強化
理由	地域ぐるみでの子育てや健康づくりを進めるための取り組みの強化が必要。

※1 : 機能している・一部機能している・機能していない の 3 段階

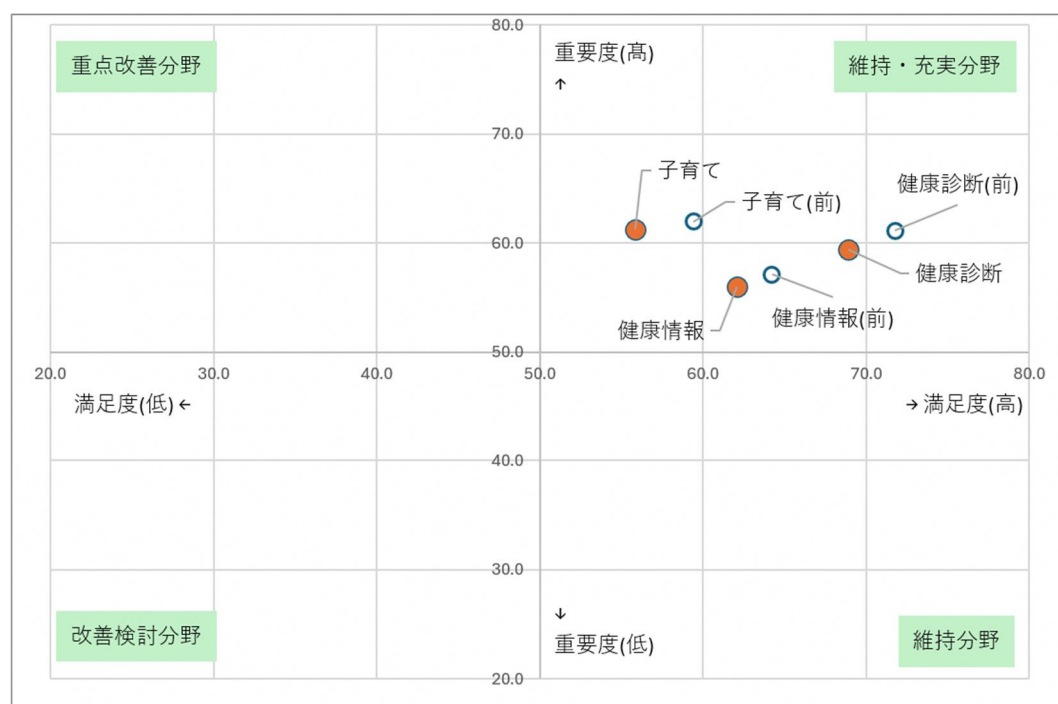
※2 : 強化・維持・縮小の 3 段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
VI-1.健康に暮らすための情報提供や意識向上に関する取り組み	2.48	2.70	-0.22	6.24	6.74	-0.50
VI-2.健康診断や健康相談	3.90	4.24	-0.34	6.75	7.32	-0.57
VI-8.安心して子育てのできる環境	1.18	1.72	-0.54	7.02	7.44	-0.42
平均	2.52	2.89	-0.37	6.67	7.17	-0.50

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
出生数	150 人	113 人	C (未達成)
重度要介護（要介護 4、5）者数	123 人	121 人	A (達成)

4. 評価結果（一覧）

評価項目	結果	コメント
満足度数	2.52	点数では前回比-0.37 と低下している。
重要度数	6.67	点数では前回比-0.50 と低下している。
満足度・重要度偏差値	維持・充実	関連する項目は、全て維持・充実分野に位置し、満足度は低下、重要度は概ね横ばいとなっている。
KPI	C (未達成) A (達成)	KPI は概ね達成した項目と未達成の項目がみられる。

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の4段階）

評価	コメント
おおむね適切	満足度数・偏差値は前回より低下しているものの、関連する項目は全て維持・充実分野に位置している。一方で、地域ぐるみでの子育てや健康づくりをさらに推進するため、取り組みの充実・強化を図りながら施策を推進することが望まれる。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標 2 : 健康で安心して暮らせるまちづくり)	
第 2 節 医療の充実 (P 46~48)	
施策	①住みなれた地域で生涯を通じて健康で安心して暮らせる地域医療体制の確立
【関連する総合戦略】※本評価は、下記総合戦略「施策」の効果検証を兼ねる。 ■基本目標 4 : だれもが住みやすいまちをつくる (P35) ・施策 2 : 地域医療の支援 (1) 医療の担い手確保及び診療体制の充実	

評価項目 : I -2-2

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状 (実現度)	実現できている
現状 (具体)	・ R6.3 に公設民営であるよしか病院を開設。町の基幹病院として、開業医や福祉サービス事業所と連携した医療提供体制を整備。 ・ 高度医療については、圏域や近隣他県の医療機関に搬送し対応。搬送にあたっては、必要に応じてドクターヘリを活用している。 ・ 救急医療について、よしか病院は日中時間帯に限り救急患者の受入を行っているが、夜間や重症患者については、益田赤十字病院等の急性期医療機関と連携し対応できる体制を整備している。 ・ 全国的な医師偏在、生産年齢人口の減少により医療従事者の確保が困難な状況がある。 ・ 各医療制度については、事務監査等においても大きな指摘事項もなく運営している。 ・ 町内にない診療科については通院支援を実施している。 ・ よしか病院に総合診療科を開設し、多様な健康問題をワンストップで診療する体制が整備されたことで、診療科目の検索性が向上した。
外部要因	・ 人口減少による医療ニーズの変化 (病床数・診療科等) 及び医師、看護師等の医療従事者の減少、偏在化 ・ 精神通院、更生医療等は継続的に利用がある状況。 ・ 精神科などはよしか病院でも開設されたが町外の医療機関にも頼らざるを得ない状況。
内部要因	・ 人材の確保に対する情報発信、ノウハウの不足。 ・ 病院建物の老朽化、財政状況の弱体化。
施策が機能しているか (評価) ※1	機能している
理由 (機能)	よしか病院の開設により町の医療を継続できた。一方で、持続可能な医療提供体制の整備及び確立、担い手の確保、病院建設等のハード整備等の課題が残っているが、施策全体としては概ね機能している。
方向性※2	強化
理由	・ 町民のライフラインとしての機能を確保するため、地域医療の中核となるよしか病院の健全な運営をはじめ医療確保に係る取り組みの強化が必要。 ・ 各種医療制度については、県で統一の制度運用などは継続して実施する必要がある。 ・ 町内の診療科が増えれば通院支援等は縮小も考慮する必要があるがキャパシティの限度もあることから継続して実施する必要がある。

・よしか病院開設による医療体制の再編は、住民生活への影響が大きいことから、今後も住民理解を得ながら町の医療確保に向けて取り組む必要がある。

※1：機能している・一部機能している・機能していない の3段階

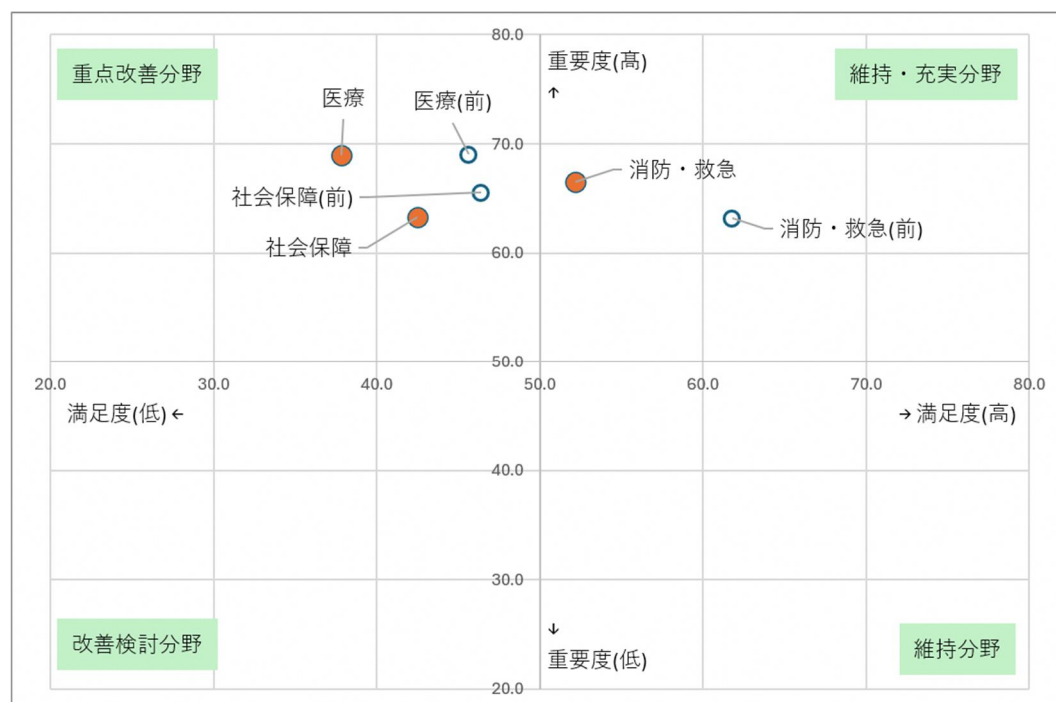
※2：強化・維持・縮小の3段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
III-3.消防・救急に関する取り組み	5.60	5.38	0.22	7.96	8.01	-0.05
VI-3.安心できる医療体制・医療サービス	-2.58	-1.09	-1.49	8.16	8.47	-0.31
VI-9.医療保障や老後保障	-1.61	-0.94	-0.67	7.32	7.96	-0.64
平均	0.47	1.12	-0.65	7.81	8.15	-0.33

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
町内医療機関における看護師の新規確保数※	3人／年	4.5人／年 (2か年：9人)	A(達成)

※R6年3月のよしか病院開設により、町の医療体制が大きく変更となったため、評価対象医療機関及び評価期間については、よしか病院のR6年度～R7年度における看護師・准看護師の新規確保数とした。

4. 評価結果（一覧）

評価項目	結果	コメント
満足度数	0.47	点数では前回比－0.65 と低下している。
重要度数	7.81	点数では前回比－0.33 と低下している。
満足度・重要度偏差値	重要改善	関連する項目のうち、重点改善分野に位置する項目が多くなっている。満足度はすべての項目で低下している。重要度は概ね横ばいとなっている。
KPI	A（達成）	KPI は達成している。

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の4段階）

評価	コメント
改善が必要	KPI は達成しているものの、満足度偏差値はすべての項目で低下し、関連する項目は重点改善分野に位置するものが多くなっている。また、地域医療の確保・充実に向けて、地域住民や関係機関等とともに町の医療の在り方について対話を重ね、持続可能な医療体制の構築に取り組む必要がある。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標 2 : 健康で安心して暮らせるまちづくり)

第3節 福祉の充実（P49～56）

施策	①誰もが住み続けたくなる居心地のいいまちづくり ②安心して子どもを生み、親子が明るくのびのびと育ち、生きることに喜びを感じるまちづくり ③いきいきと笑顔で暮らせる生涯現役のまちづくり ④みんなが自立し、その人らしくいきいきと、安心して快適に共に暮らせるまちをめざして（障がい者福祉）
----	--

【関連する総合戦略】※本評価は、下記総合戦略「施策」の効果検証を兼ねる。

■基本目標３：結婚・出産・子育ての希望をかなえる（P31～32）

- ・施策２：出産への支援（１）出産への支援（基本目標２第１節にも掲載）
- ・施策３：子育て支援（１）子育て世帯の経済的負担軽減
（２）子育て環境の整備

■基本目標4：だれもが住みやすいまちをつくる（P36）

- ・施策３：地域福祉等の充実 （１）地域福祉の担い手確保

評估項目：I-2-3

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状（実現度）	一部実現できている
現状（具体）	子育て環境については子ども家庭センター等連携して取り組みを行っている。また、重層的支援体制整備事業により包括的な相談支援体制の構築を図っているが、社会資源の活用や拡充に課題が残っている。
外部要因	人口減少、高齢化等により地域の担い手が不足しつつある。
内部要因	社会資源の活用や拡充に向けた取り組みが不十分。
施策が機能しているか （評価）※1	一部機能している
理由（機能）	一部の施策では成果が見られるが、全体としての効果は限定的。
方向性※2	維持
理由	様々な要因により十分な取り組みとなっていない部分もあるが、他機関との連携等、徐々に形作られてきたものもある。

※1：機能している・一部機能している・機能していない の3段階

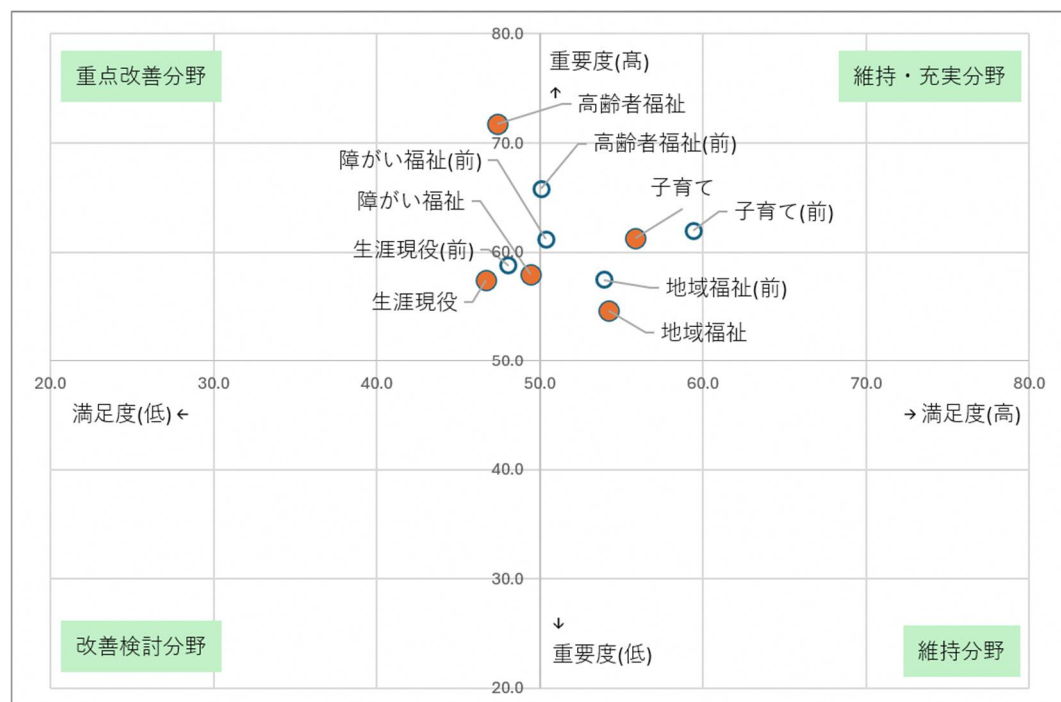
※2：強化・維持・縮小の3段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
VI-4.障がい者(児)が安心して暮らせる環境	-0.16	-0.12	-0.04	6.54	7.33	-0.79
VI-5.高齢者が安心して暮らせる環境	-0.58	-0.18	-0.40	8.58	8.00	0.58
VI-6.生涯現役で暮らすことのできる環境	-0.74	-0.59	-0.15	6.46	6.98	-0.52
VI-7.みんなで助け合う地域の福祉活動	0.84	0.60	0.24	6.05	6.79	-0.74
VI-8.安心して子育てのできる環境	1.18	1.72	-0.54	7.02	7.44	-0.42
平均	0.11	0.29	-0.18	6.93	7.31	-0.38

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
出生数	150 人	113 人	C (未達成)
保育料、給食費、高校卒業までの医療費	0 円	0 円	A (達成)
町内保育所の待機児童の人数	0 人	0 人	A (達成)
社会福祉協議会のボランティア新規登録者数	10 人／年	4 人/年	C (未達成)

4. 評価結果（一覧）

評価項目	結果	コメント
満足度数	0.11	点数では前回比－0.18 と低下している。
重要度数	6.93	点数では前回比－0.38 と低下している。
満足度・重要度偏差値	重点改善・維持・充実	関連する項目のうち、全体的に重点改善分野と維持・充実分野に位置している。満足度はほぼすべての項目で低下している。重要度は概ね横ばいとなっているが、高齢者福祉に関してのみ上昇している。
KPI	C (未達成) A (達成)	KPI は達成した項目と未達成の項目が半々となっている。

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の4段階）

評価	コメント
改善が必要	満足度数・偏差値は前回より低下しており、関連する項目は重点改善分野を中心に位置している。また、KPI も未達成の項目があることから、多機関連携をさらに推進しながら、高齢者福祉をはじめとする施策の充実・強化が必要である。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標2：健康で安心して暮らせるまちづくり)	
第4節 社会保障の充実 (P57～58)	
施策	①国民健康保険と後期高齢者医療
【関連する総合戦略】 なし (※本節は、まちづくり計画の評価のみを行います。)	

評価項目：I-2-4

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状（実現度）	実現できている
現状（具体）	・国保一元化については、県内市町村での方針案の策定が進んでいる。 ・国保、後期共に国保連合会へ審査を委託する事により適正な給付を図り、人口規模と収入に見合った保険税（料）率等の設定を行っている。 ・人間ドック費用の助成や特定健診の受診勧奨を実施しており、県内での受診率も上位に位置づけている（県内1位）。
外部要因	今後の懸念事項として、人口が減少する事により一人当たり保険税（料）の増加が見込まれる。
内部要因	一人当たり保険税（料）の抑制のための計画的な基金の活用。
施策が機能しているか（評価）※1	機能している
理由（機能）	概ね現状欄で述べた通りのため機能していると判断した。
方向性※2	維持
理由	医療費抑制のための健診やがん検診を推進するためにも、保健師を中心に意識啓発などに継続して取り組む必要がある。

※1：機能している・一部機能している・機能していない の3段階

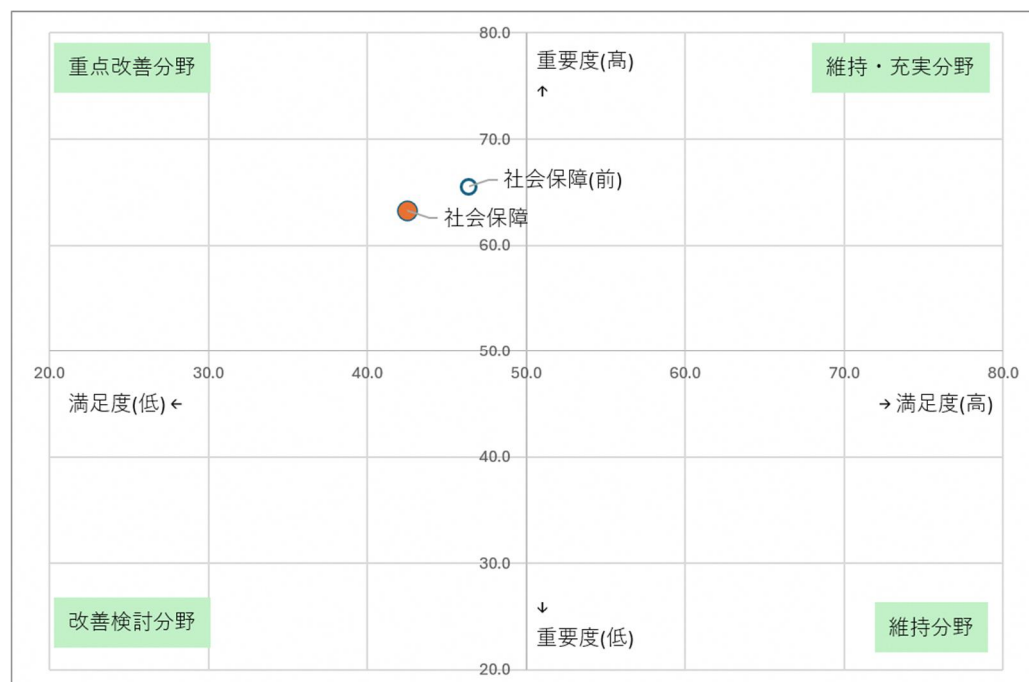
※2：強化・維持・縮小 の3段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
VI-9.医療保障や老後保障	-1.61	-0.94	-0.67	7.32	7.96	-0.64
平均	-1.61	-0.94	-0.67	7.32	7.96	-0.64

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
—	—	—	—

4. 評価結果（一覧）

評価項目	結果	コメント
満足度数	-1.61	点数では前回比-0.67 と低下している。
重要度数	7.32	点数では前回比-0.64 と低下している。
満足度・重要度偏差値	重点改善	関連する項目は、重点改善分野に位置している。満足度は低下しており、重要度は概ね横ばいとなっている。
KPI	—	—

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の4段階）

評価	コメント
改善が必要	満足度は前回よりも低下している。また、関連する項目は重点改善分野に位置している。保健師を中心に意識啓発などの取り組みを継続・充実していく必要がある。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標3：魅力と活力に満ちて暮らせるまちづくり)

第1節 農林水産業の振興 (P59～70)

施策	①環境と調和のとれた産業の振興 ②地域ブランドの確立 ③流通・販売体制の確立 ④担い手の確保 ⑤森林資源を活かした産業の創出
----	--

【関連する総合戦略】※本評価は、下記総合戦略「施策」の効果検証を兼ねる。

■基本目標1：暮らしの基盤となるしごとをつくる（P21～22）

・施策１：町内産業の活力創出	(１) 農業の振興 (２) 林業の振興
----------------	------------------------

評価項目：I-3-1

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状（実現度）	一部実現できている
現状（具体）	野菜の生産者数が増加したため農業産出額が増額し、新規就農者数も増加したが、依然として少子高齢化の影響があるため、既存の事業施策以外の新たな取り組みが必要。
外部要因	・新規就農者数を上回る、高齢化による離農者の増加。 ・近年の異常気象の影響による収穫量の減少。 ・肥料や農業資材の価格高騰。 ・主食用米の価格変動。
内部要因	新たに地域の担い手となり得る認定農業者や集落営農組織の掘りおこしが十分でない。
施策が機能しているか （評価）※1	一部機能している
理由（機能）	各種補助事業、支援策により目標値を達成した項目もあるが、見直しが必要な項目がある。
方向性※2	維持
理由	農林業の担い手確保は喫緊の課題である。集落営農法人などによる農地の集約化を支援し、必要性・妥当性を勘案した施策の見直しや拡充が必要である。

※1：機能している・一部機能している・機能していないの 3段階

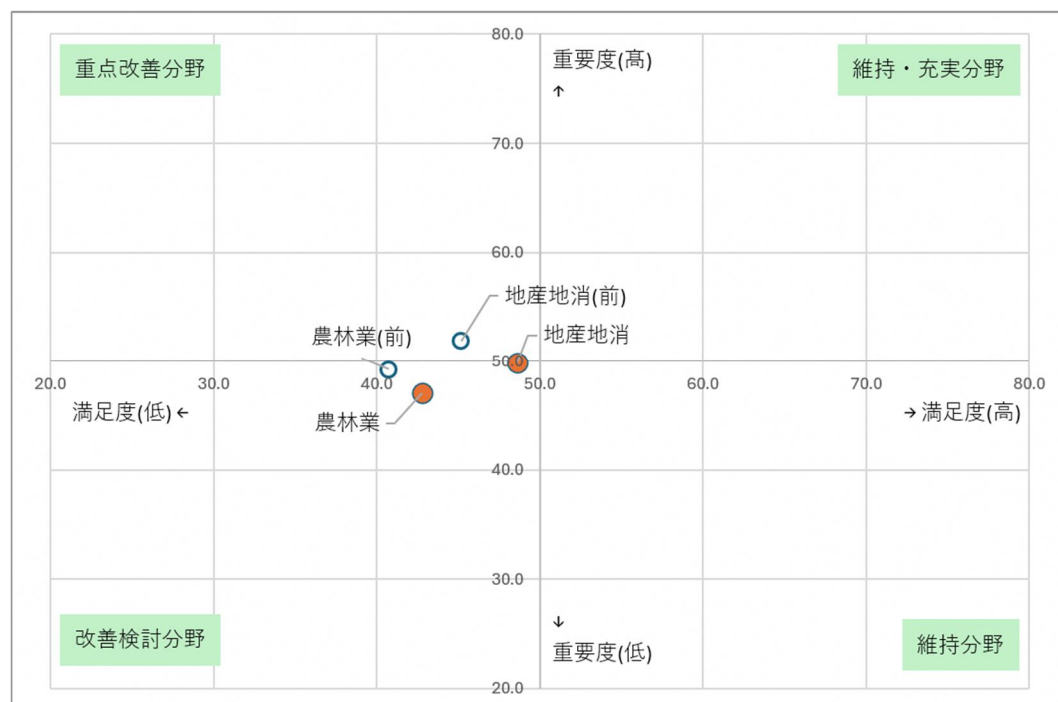
※2：強化・維持・縮小の3段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
VIII-8.農林業振興の取り組み	-1.55	-2.09	0.54	4.91	5.59	-0.68
VIII-9.地産地消の取り組み	-0.33	-1.19	0.86	5.34	5.98	-0.64
平均	-0.94	-1.64	0.70	5.13	5.79	-0.66

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
農業算出額	80 千万円	81 千万円	A (達成)
認定農業者数	32 経営体	30 経営体	C (未達成)
集落営農組織数	15 団体	12 団体	C (未達成)
新規就農者数	10 経営体	15 経営体	A (達成)
商談成約件数	5 件	0 件	C (未達成)
再造林への助成	50ha	63.6 ha	A (達成)
新規森師研修員	15 人	6 人	C (未達成)

4. 評価結果（一覧）

評価項目	結果	コメント
満足度数	-0.94	点数では前回比+0.70 と上昇している。
重要度数	5.13	点数では前回比-0.66 と低下している。
満足度・重要度偏差値	改善検討	関連する項目は、改善検討分野に位置している。満足度は上昇し、重要度は概ね横ばいとなっている。
KPI	A（達成） C（未達成）	7 項目の KPI うち未達成が 4 項目、達成は 3 項目となっている。

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の 4 段階）

評価	コメント
改善が必要	満足度数は数値としてはやや低く、関連する項目は改善検討分野に位置している。また、KPI は一部達成しているものの未達成の項目が多く、農林業の担い手確保や法人化等の集約化に向けた支援など、施策の見直しや取り組みの充実・強化が必要である。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標3：魅力と活力に満ちて暮らせるまちづくり)	
第2節 商工業の振興（P71～74）	
施策	①商業活動の活性化の推進 ②地場産業の振興と企業誘致・創業支援の推進
【関連する総合戦略】※本評価は、下記総合戦略「施策」の効果検証を兼ねる。 ■基本目標1：暮らしの基盤となるしごとをつくる（P22～23） ・施策1：町内産業の活力創出 （3）商工業の振興 ・施策2：雇用対策 （1）雇用の場の確保 （2）企業誘致の促進	

評価項目：I-3-2

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状（実現度）	一部実現できている
現状（具体）	創業件数は増加傾向にあるが、生活商業機能の確保については課題が残っている。
外部要因	高齢化や後継者不足による廃業、物価高騰による事業活動縮小。
内部要因	事業承継に向けたサポートが十分でない。
施策が機能しているか（評価）※1	一部機能している
理由（機能）	商業支援や創業支援により一定数の事業継続や創業につながっている一方、高齢化や後継者不足により事業の維持が難しいところもみられる。
方向性※2	維持
理由	地域商業の維持や創業支援は地域住民の生活機能確保や雇用維持に重要であり、引き続き継続的な支援が必要である。

※1：機能している・一部機能している・機能していない の3段階

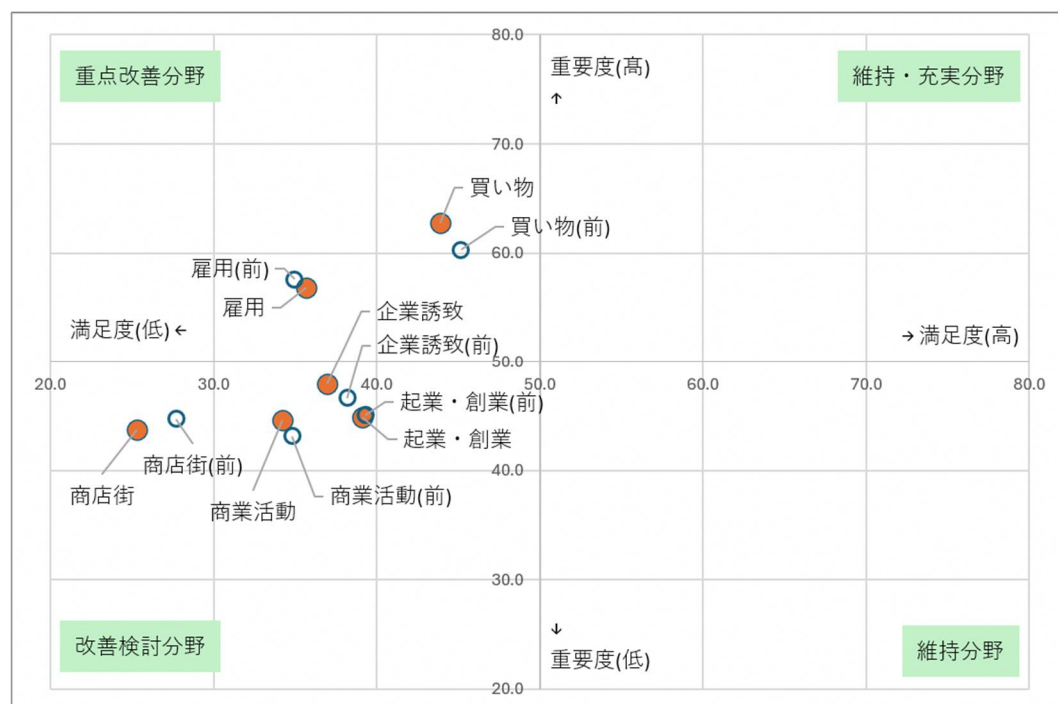
※2：強化・維持・縮小の3段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
I-10.日常の買い物等の利便性	-1.32	-1.19	-0.13	7.24	7.20	0.04
VIII-3.中心商店街の魅力	-5.20	-4.75	-0.45	4.43	4.94	-0.51
VIII-4.身近な地域における商業活動	-3.33	-3.30	-0.03	4.56	4.71	-0.15
VIII-5.企業誘致の取り組み	-2.77	-2.61	-0.16	5.05	5.22	-0.17
VIII-6.企業活動や起業・創業を行う環境	-2.31	-2.38	0.07	4.60	4.99	-0.39
VIII-7.雇用の方・雇用の機会	-5.20	-4.75	-0.45	4.43	4.94	-0.51
平均	-3.36	-3.16	-0.19	5.05	5.33	-0.28

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
事業所数	375	321	C (未達成)
吉賀町新規雇用促進助成金の交付者数	25 人	15 人	C (未達成)
吉賀町企業立地促進助成金交付企業数	2 社	0 社	C (未達成)

4. 評価結果（一覧）

評価項目	結果	コメント
満足度数	-3.36	点数では前回比－0.19 と低下している。
重要度数	5.05	点数では前回比－0.28 と低下している。
満足度・重要度偏差値	改善検討、重点改善	関連する項目は、多くは改善検討分野に位置しており、一部重点改善分野に位置している。満足度、重要度ともに概ね横ばいとなっている。
KPI	C（未達成）	すべての KPI の項目が未達成となっている。

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の 4 段階）

評価	コメント
改善が必要	満足度数は低く、前回よりも低下している。また、関連する項目は多くが改善検討分野に位置し、一部重点改善分野に位置している。KPI もすべて未達成となっていることから、地域商業の維持や創業支援など、取り組みの充実・強化が必要である。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標3：魅力と活力に満ちて暮らせるまちづくり)	
第3節 交流・定住の推進 (P75～77)	
施策	①田舎ツーリズムの推進による交流人口の拡大 ②UIターンの促進
【関連する総合戦略】※本評価は、下記総合戦略「施策」の効果検証を兼ねる。 ■基本目標2：暮らしの場として多くのひとに選ばれる (P26～28) ・施策1：情報発信 (1) 情報発信の強化 (基本目標6第1節にも掲載) ・施策2：移住・定住・来町の支援 (1) UIターン者や定住者・来町者への支援 (2) 住宅・住居に関する支援 ・施策3：関係人口、交流人口の創出 (1) 高校魅力化の推進 (2) 高等教育・研究機関や都市住民との連携・交流 ■基本目標3：結婚・出産・子育ての希望をかなえる (P31) ・施策1：結婚への支援 (1) 出会いの機会創出及び結婚支援	

評価項目：I-3-3

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状（実現度）	あまり実現できていない
現状（具体）	・田舎ツーリズムは、大学生交流の拠点となっている。 ・県主催のUIターン移住相談会への参加はしているが、町独自での推進事業や情報発信を行っていない。また、集落等の受け入れ側の意識醸成も未着手である。
外部要因	・高齢化による担い手不足に加え、田舎ツーリズムの受け入れ施設のインフラ整備やメニュー等が課題。 ・UIターンにおいて、地域外からの来町交通手段の不便さがハードルになっている。同時に、地域内での交通に対しても不便さを感じる方が多い。
内部要因	情報発信や関連機関との連携が不足している。
施策が機能しているか（評価）※1	機能していない
理由（機能）	・交流人口が限定的（大学生交流等特定の団体）になっている。 ・補助制度の活用は案内しているが、UIターンの促進に向けた関係機関との連携等が不足している。
方向性※2	維持
理由	・ポストコロナにおける「農泊」需要の高まりや、田舎暮らしを求める子育て世代との関係づくりのために継続した取り組みが必要である。 ・移住定住に向けた、田舎ツーリズムや産業体験等のメニューを活用し、連携した取り組みが望まれる。

※1：機能している・一部機能している・機能していない の3段階

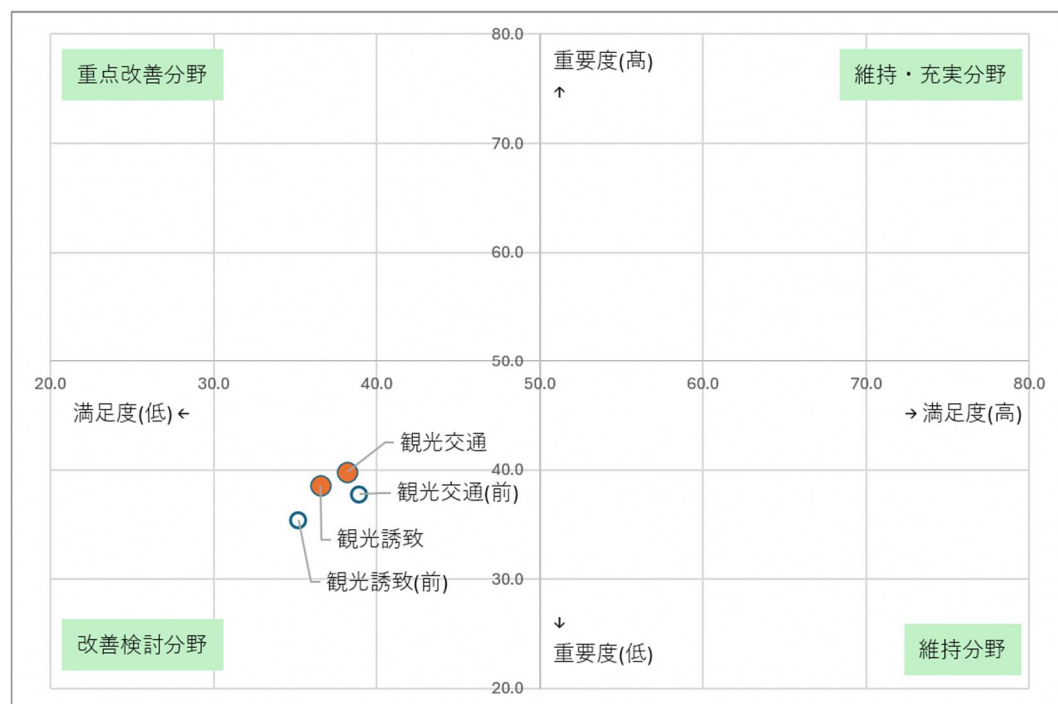
※2：強化・維持・縮小 の3段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
VIII-1.観光施設や観光のための交通網	-2.51	-2.46	-0.05	3.85	3.93	-0.08
VIII-2.観光客を誘致するための取り組み	-2.85	-3.22	0.37	3.67	3.59	0.08
平均	-2.68	-2.84	0.16	3.76	3.76	0.00

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
ふるさと納税金額	6,500 万円	6264.1 万円	B (概ね達成)
フェイスブック「吉賀町でくらす」閲覧者数	8,000 人／年	4,171 人／年	C (未達成)
相談員を通して移住した人数	100 人	39 人	C (未達成)
空き家バンク登録物件からの成約数	75 件	70 件	B (概ね達成)
吉賀高校の入学者数	40 人／年	29.5 人／年	C (未達成)
大学等との交流事業	10 回	9 回	B (概ね達成)
婚姻件数	100 件	55 件	C (未達成)

4. 評価結果（一覧）

評価項目	結果	コメント
満足度数	-2.68	点数では前回比+0.16 と上昇している。
重要度数	3.76	点数では前回比 0.00 となっている。
満足度・重要度偏差値	改善検討	関連する項目は、全て改善検討分野に位置している。満足度は概ね横ばいとなっており、重要度はやや上昇している。
KPI	B（概ね達成） C（未達成）	KPI 7 項目中、概ね達成は 3 項目、未達成が 4 項目となっている。

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の 4 段階）

評価	コメント
改善が必要	満足度数は前回からやや向上しているものの、依然として低く、関連する項目は全て改善検討分野に位置している。また、KPI も未達成の項目が多いことから、移住定住に向けた関係づくりや体験メニューの充実など、取り組みの改善・強化が必要である。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標3：魅力と活力に満ちて暮らせるまちづくり)	
第4節 人づくりの推進 (P78～79)	
施策	①まちづくりの担い手の育成
【関連する総合戦略】 ※本評価は、下記総合戦略「施策」の効果検証を兼ねる。 ■基本目標4：だれもが住みやすいまちをつくる (P38) ・施策4：地域づくりの推進 (1) 住民が主体となった地域づくりの推進	

評価項目：I-3-4

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状（実現度）	あまり実現できていない
現状（具体）	高齢化により地域リーダーが不足している。また、地域主体・住民主体といった意識が低下している。
外部要因	職員体制の強化（公民館主事2人体制の推進）。
内部要因	地域主体・住民主体といった意識啓発が行えていない。
施策が機能しているか（評価）※1	機能していない
理由（機能）	一部の地域では機能しているものの、大半で集落機能が低下している。
方向性※2	維持
理由	現状の地域コミュニティが維持できるよう、地域への支援体制を構築し、地域リーダーの育成が必要。

※1：機能している・一部機能している・機能していない の3段階

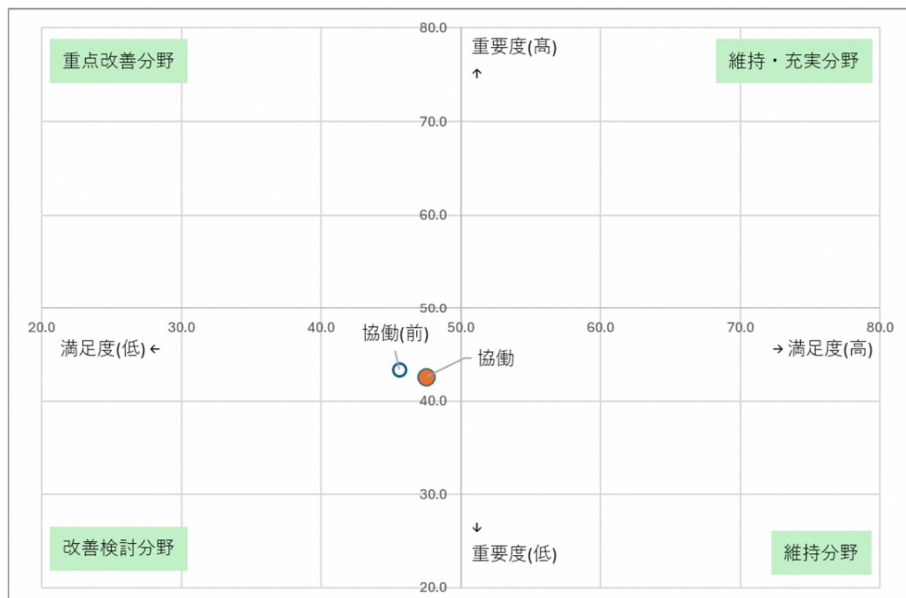
※2：強化・維持・縮小の3段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
IX-4.協力（協働）によるまちづくり	-0.56	-1.10	0.54	4.26	4.74	-0.48
平均	-0.56	-1.10	0.54	4.26	4.74	-0.48

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
吉賀町げんき地域づくり補助金助成団体数	10 団体	4 団体	C（未達成）

4. 評価結果（一覧）

評価項目	結果	コメント
満足度数	-0.56	点数では前回比+0.54 と上昇している。
重要度数	4.26	点数では前回比-0.48 と低下している。
満足度・重要度偏差値	改善検討	関連する項目は、改善検討分野に位置している。満足度はやや上昇し、重要度は概ね横ばいとなっている。
KPI	C（未達成）	KPI は未達成となっている。

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の 4 段階）

評価	コメント
改善が必要	満足度数・偏差値は前回から向上しているものの、依然として低く、関連する項目は改善検討分野に位置している。地域への支援体制の構築や地域リーダーの育成など、取り組みの充実・改善が必要である。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

基本目標 4：人と歴史を大切にして暮らせるまちづくり)	
第 1 節 学校教育の充実 (P80～83)	
施策	①特色ある学校教育の推進
【関連する総合戦略】 ※本評価は、下記総合戦略「施策」の効果検証を兼ねる。 ■基本目標 4：だれもが住みやすいまちをつくる (P39) ・施策 4：地域づくりの推進 (3) 地域人材育成の支援	

評価項目：I-4-1

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状（実現度）	一部実現できている
現状（具体）	全 5 小学校区で放課後サクラマス教室を実施し、モノづくりやスポーツ体験等に取り組んだ。
外部要因	・サクラマスパートナーを始め、地域住民の方が放課後サクラマス教室に多くの方が関わってくださった。 ・近年、吉賀高校生の参加もある。
内部要因	・公民館と自治会、学校、地域住民をつなぐ役割が重要であり、自治会との連携強化が課題である。
施策が機能しているか（評価）※1	一部機能している
理由（機能）	一部の施策では成果が見られるが、全体としての効果は限定的である。
方向性※2	強化
理由	継続して取り組んでいくことが必要。

※1：機能している・一部機能している・機能していない の 3 段階

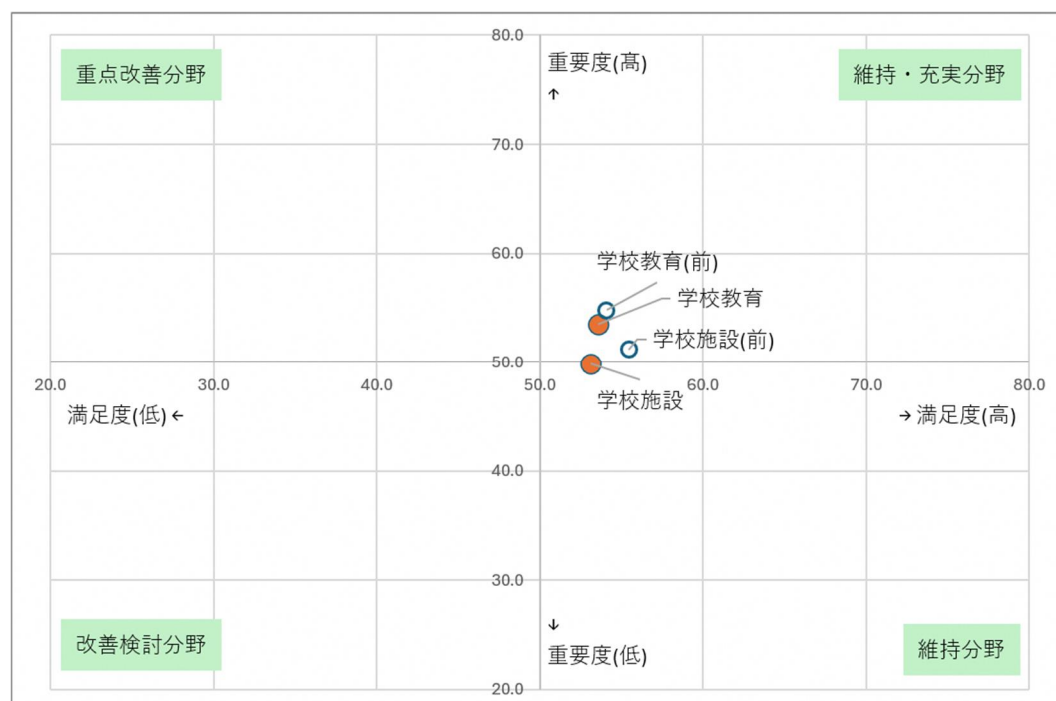
※2：強化・維持・縮小 の 3 段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
VII-1.個々の能力・適性に応じた学校教育	0.70	0.63	0.07	5.87	6.40	-0.53
VII-2.学校施設の整備	0.61	0.91	-0.30	5.34	5.88	-0.54
平均	0.66	0.77	-0.12	5.61	6.14	-0.54

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
放課後サクラマス教室の開催地区	5 カ所	5 カ所	A (達成)

4. 評価結果 (一覧)

評価項目	結果	コメント
満足度数	0.66	点数では前回比-0.12 と低下している。
重要度数	5.61	点数では前回比-0.54 と低下している。
満足度・重要度偏差値	維持・充実	関連する項目は、維持・充実分野、維持分野に位置している。満足度はやや低下し、重要度は概ね横ばいとなっている。
KPI	A (達成)	KPI は達成している。

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の4段階）

評価	コメント
概ね適切	満足度数・偏差値はやや低下しているものの、関連する項目は維持・充実分野及び維持分野に位置し、KPIも達成している。今後も住民ニーズを踏まえながら、継続的に取り組みを推進していくことが望まれる。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標4：人と歴史を大切にして暮らせるまちづくり)	
第2節 社会教育の充実 (P84～93)	
施策	①地域を支える人材の育成 ②公民館活動の充実 ③図書館活動の充実 ④多様なスポーツ活動の推進 ⑤家庭教育支援の充実 ⑥人権が尊重されるまちづくり
【関連する総合戦略】 ■基本目標4：だれもが住みやすいまちをつくる（基本目標6第1節にも掲載）(P38) ・施策4：地域づくりの推進 （2）地域資源の有効活用	

評価項目：I-4-2

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状（実現度）	一部実現できている
現状（具体）	各館(地域)において特色ある活動が実施されている。
外部要因	地域社会の変化(少子高齢化、人口減少、核家族の増加、つながりの希薄化、後継者不足等)。
内部要因	職員体制の強化(公民館主事2人体制の推進)。
施策が機能しているか (評価) ※1	一部機能している
理由（機能）	学校や地域団体との協働事業が定着しつつある等。
方向性※2	維持
理由	一定の成果は認められるため方針は妥当であると考えられる。一方で、継続的な取り組みが必要である。

※1：機能している・一部機能している・機能していない の3段階

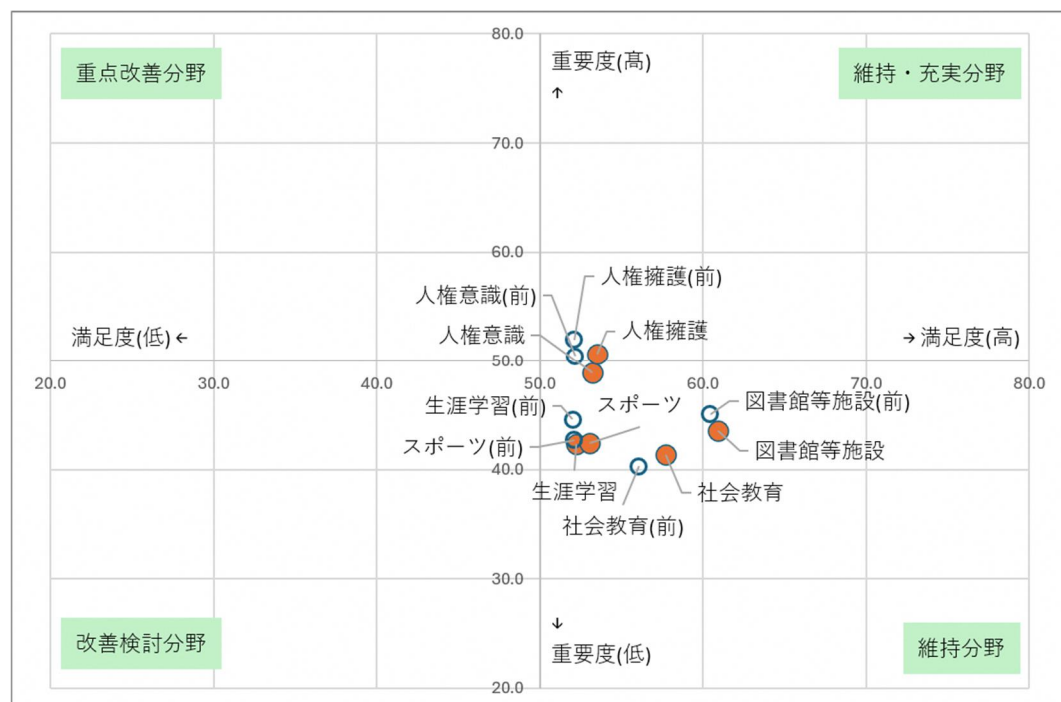
※2：強化・維持・縮小の3段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
IV-1.人権意識の向上のための取り組み	0.63	0.24	0.39	5.20	5.77	-0.57
IV-2.住民の人権を守るための取り組み	0.70	0.23	0.47	5.45	5.99	-0.55
VII-3.生涯学習に取り組むための機会	0.43	0.21	0.22	4.22	4.92	-0.70
VII-4.公民館活動や社会教育活動に参加できる機会	1.56	1.04	0.52	4.08	4.30	-0.22
VII-5.公民館・図書館等の施設	2.24	1.93	0.31	4.40	4.99	-0.59
VII-8.スポーツに親しむことのできる環境	0.59	0.23	0.36	4.23	4.65	-0.42
平均	1.03	0.65	0.38	4.60	5.10	-0.51

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
町内のスポーツ施設を活用したイベント	5 回	4 回	B (概ね達成)

4. 評価結果 (一覧)

評価項目	結果	コメント
満足度数	1.03	点数では前回比+0.38 と上昇している。
重要度数	4.60	点数では前回比-0.51 と低下している。
満足度・重要度偏差値	維持	関連する項目は、全体的に維持分野に位置している。満足度、重要度とも概ね横ばいとなっている。
KPI	B (概ね達成)	KPI は概ね達成となっている。

5. 庁内評価 (※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の 4 段階)

評価	コメント
概ね適切	満足度数は向上しており、関連する項目は全体的に維持分野に位置している。また、まちづくり計画の評価【担当課】においても方針は妥当と評価されていることから、今後も継続的に取り組みを推進していくことが望まれる。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標4：人と歴史を大切に暮らせるまちづくり)	
第3節 文化財の保護と活用 (P94～95)	
施策	①文化財・文化資源の保存や利活用 ②文化芸術活動の推進
【関連する総合戦略】 なし (※本節は、まちづくり計画の評価のみを行います。)	

評価項目：I-4-3

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状（実現度）	一部実現できている
現状（具体）	「吉賀探訪」という町内を巡る催しを実施している。神楽等の無形文化財の伝承。
外部要因	文化財は基本的に所有者管理であるが、高齢化もあり、管理できていない文化財も多い。
内部要因	情報発信が十分ではない。
施策が機能しているか （評価）※1	一部機能している
理由（機能）	補助により無形文化財の伝承に寄与している。「吉賀探訪」などで文化財に触れる機会となっている。
方向性※2	維持
理由	まず文化財の適切な管理を行えるよう努める必要がある。

※1：機能している・一部機能している・機能していない の3段階

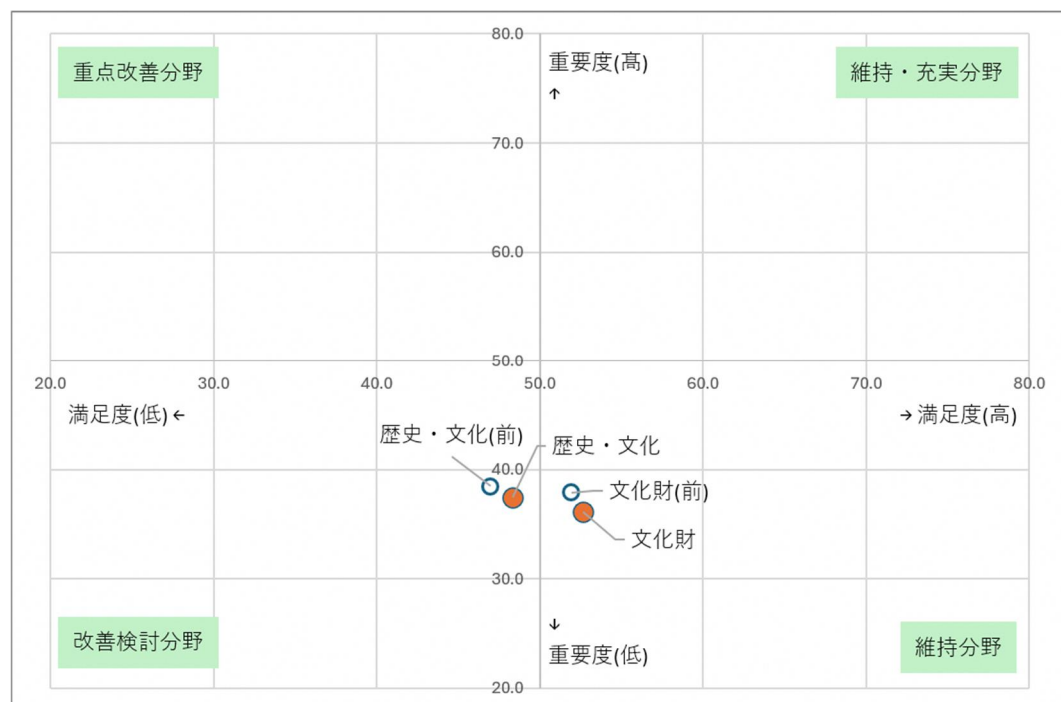
※2：強化・維持・縮小の3段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
VII-6.文化財の保全・活用	0.51	0.19	0.32	3.30	3.95	-0.65
VII-7.歴史・文化・芸術に親しむこと のできる環境	-0.40	-0.82	0.43	3.50	4.03	-0.53
平均	0.06	-0.32	0.38	3.40	3.99	-0.59

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
—	—	—	—

4. 評価結果（一覧）

評価項目	結果	コメント
満足度数	0.06	点数では前回比+0.38 と上昇している。
重要度数	3.40	点数では前回比-0.59 と低下している。
満足度・重要度偏差値	維持、改善検討	関連する項目は、維持分野、改善検討分野に位置している。満足度、重要度とも概ね横ばいとなっている。
KPI	—	—

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の4段階）

評価	コメント
概ね適切	満足度数は向上しているが、関連する項目は維持分野と改善検討分野に位置していることから、文化財の適切な管理を継続しながら、必要に応じて取り組みの改善を図ることが望まれる。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標 5：協働と交流でいきいきと暮らせるまちづくり)	
第 1 節 住民自治を基盤としたまちづくり (P96～103)	
施策	①地域で支え合うコミュニティの再構築 ②住民自治の強化 ③コミュニティ施設を拠点とした住民自治活動の推進 ④各種団体・組織のネットワーク化の推進と地域間・世代間交流による地域づくり
【関連する総合戦略】なし（※本節は、まちづくり計画の評価のみを行います。）	

評価項目：I-5-1

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状（実現度）	あまり実現できていない
現状（具体）	少子・高齢化による自治機能の低下により、コミュニティ活動の活性化には繋がっていない。
外部要因	少子・高齢化による担い手不足、住民の自治意識の低下。
内部要因	職員体制の強化（公民館主事 2 人体制の推進）。
施策が機能しているか（評価）※1	機能していない
理由（機能）	高齢化により地域リーダーが不足している。
方向性※2	維持
理由	自治組織に対する支援や拠点施設の在り方の検討が必要。

※1：機能している・一部機能している・機能していない の 3 段階

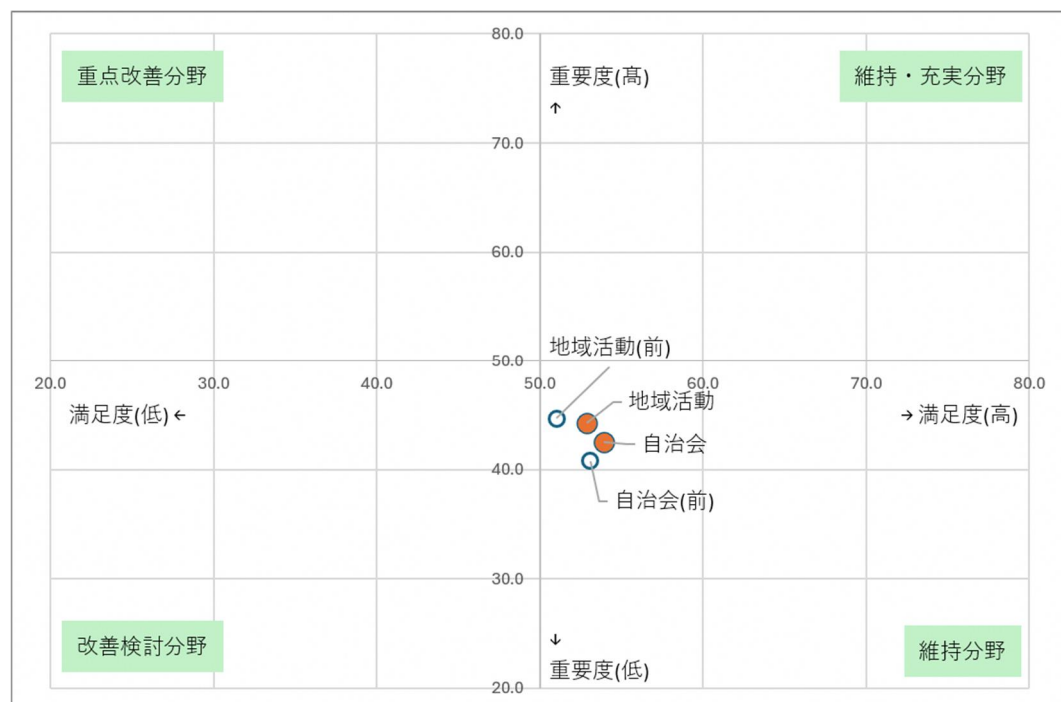
※2：強化・維持・縮小の 3 段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
IX-1.住民が主体となった地域活動	0.56	0.01	0.55	4.50	4.93	-0.43
IX-2.町内会活動や自治会活動	0.78	0.43	0.35	4.25	4.37	-0.12
平均	0.67	0.22	0.45	4.38	4.65	-0.28

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
—	—	—	—

4. 評価結果（一覧）

評価項目	結果	コメント
満足度数	0.67	点数では前回比+0.45 と上昇している。
重要度数	4.38	点数では前回比-0.28 と低下している。
満足度・重要度偏差値	維持	関連する項目は、全て維持分野に位置している。満足度、重要度とも概ね横ばいとなっている。
KPI	—	—

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の4段階）

評価	コメント
改善が必要	満足度数は向上しているものの、自治組織への支援や拠点施設の在り方などの課題があることから、取り組みの充実・改善が必要である。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標5：協働と交流でいきいきと暮らせるまちづくり)	
第2節 住民と共に築く参画と協働のまちづくり (P104～109)	
施策	①住民と行政が一体となってまちづくりを進めるための基盤づくり ②充実した情報提供と適正な情報公開システムの構築（行政と住民の信頼関係の構築） ③まちづくりボランティア活動やNPO・地域団体の育成支援
【関連する総合戦略】なし（※本節は、まちづくり計画の評価のみを行います。）	

評価項目：I-5-2

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状（実現度）	一部実現できている
現状（具体）	・町公式 LINE を発足させ、新たな情報発信に取り組んだ。既存媒体の広報やホームページの内容の充実が必要。 ・住民自治による協働の仕組みづくりや行政との連携に課題がある。
外部要因	少子・高齢化による担い手不足。
内部要因	取り組み体制が十分でない。
施策が機能しているか（評価）※1	一部機能している
理由（機能）	一部の施策では成果が見られるが、全体としての効果は限定的である。
方向性※2	維持
理由	情報発信を行い、住民が参画しやすい体制を構築することが必要。

※1：機能している・一部機能している・機能していないの3段階

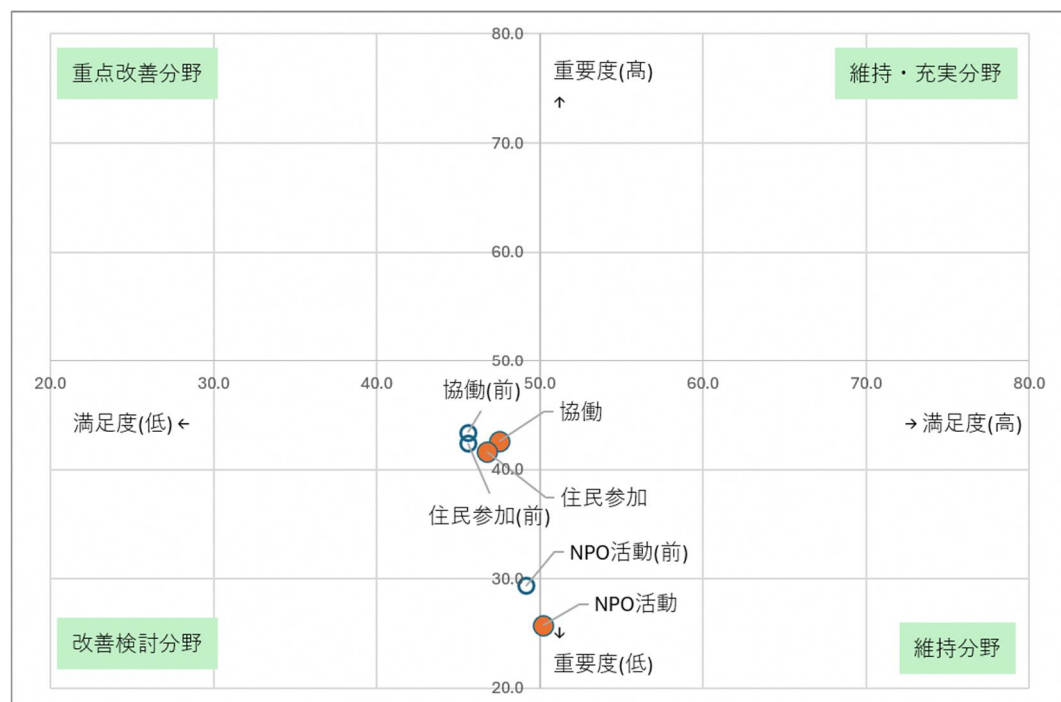
※2：強化・維持・縮小の3段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
IX-3.NPO などの市民活動	0.00	-0.37	0.37	1.76	2.71	-0.95
IX-4.協力（協働）によるまちづくり	-0.56	-1.10	0.54	4.26	4.74	-0.48
IX-5.住民がまちづくりに参加するための仕組みづくり	-0.72	-1.10	0.38	4.12	4.60	-0.48
平均	-0.43	-0.86	0.43	3.38	4.02	-0.64

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
—	—	—	—

4. 評価結果（一覧）

評価項目	結果	コメント
満足度数	-0.43	点数では前回比+0.43 と上昇している。
重要度数	3.38	点数では前回比-0.64 と低下している。
満足度・重要度偏差値	改善検討、維持	関連する項目は、改善検討分野、維持分野に位置している。満足度はやや上昇し、重要度は概ね横ばいであるが、一部やや低下した項目がある。
KPI	—	—

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の4段階）

評価	コメント
改善が必要	満足度数・偏差値はやや向上している一方で、改善検討分野に位置する項目もみられることから、住民と行政とのビジョンの共有や、情報発信や住民参画の充実など、取り組みの改善を図りながら施策を推進することが望まれる。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標5：協働と交流でいきいきと暮らせるまちづくり)	
第3節 男女が共に担う地域づくり (P110～114)	
施策	①男女共同参画 ②男女共同参画社会の形成に向けた学習・啓発活動の推進 ③女性の政策等の立案や決定への参画機会の拡大
【関連する総合戦略】 ※本評価は、下記総合戦略「施策」の効果検証を兼ねる。 ■基本目標1：暮らしの基盤となるしごとをつくる (P24) ・施策2：雇用対策 (3) 多様な働き方への理解促進 ■基本目標4：だれもが住みやすいまちをつくる (P37) ・施策3：地域福祉等の充実 (3) 人権が尊重されたまちづくりの推進	

評価項目：I-5-3

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状（実現度）	一部実現できている
現状（具体）	男女共同参画計画策定時と比較し、審議会等の構成員の男女比は改善されているが目標値を満たしていない。
外部要因	前例踏襲の人選になりやすく、結果として委員が毎回同じになりやすいため。
内部要因	組織内の意識の向上。
施策が機能しているか （評価）※1	一部機能している
理由（機能）	コロナ過の影響で地域との連携体制の再構築が十分に進まず、一部施策の実施に至っていない状況にある。
方向性※2	維持
理由	意思決定の場における男女比の均衡が図られていないため、固定的性別役割分担意識の解消を進めていく必要がある。

※1：機能している・一部機能している・機能していない の3段階

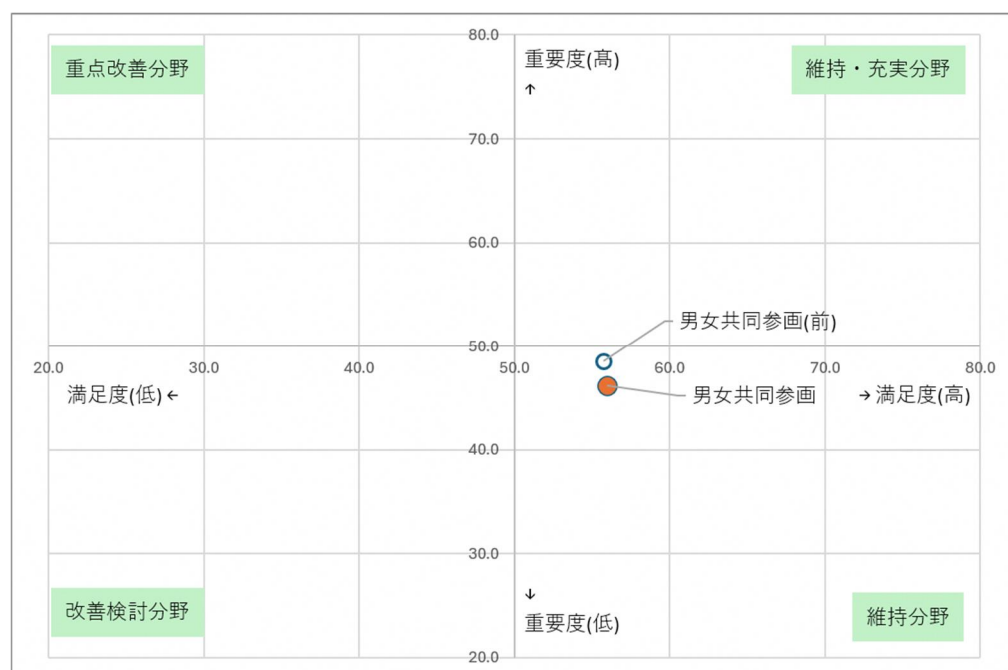
※2：強化・維持・縮小の3段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
V-1.男性と女性が等しく参画できる社会	1.21	0.97	0.24	4.78	5.49	-0.71
平均	1.21	0.97	0.24	4.78	5.49	-0.71

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
しまねイクボスネットワークへの加入企業・事業者数	5 社	0 社	C (未達成)
審議会等の女性委員割合	40%以上	35.0%	C (未達成)

4. 評価結果（一覧）

評価項目	結果	コメント
満足度数	1.21	点数では前回比+0.24 と上昇している。
重要度数	4.78	点数では前回比-0.71 と低下している。
満足度・重要度偏差値	維持	関連する項目は、維持分野に位置している。重要度はやや低下し、満足度は横ばいとなっている。
KPI	C (未達成)	KPI は全て未達成となっている。

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の4段階）

評価	コメント
改善が必要	満足度数は向上しているものの、KPI は未達成となっている。依然として固定的性別役割分担意識が根強く残るほか、ジェンダーギャップの解消も途上にあることから、取り組みの一層の推進が求められる。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

(基本目標 6 : 行財政対策)	
第 1 節 行財政改革の推進 (P115~122)	
施策	①効率的な行財政サービスの推進 ②公平・公正な税制度の確立
【関連する総合戦略】 ■基本目標 2 : 暮らしの場として多くのひとに選ばれる (基本目標 3 第 3 節にも掲載) (P26) ・施策 1 : 情報発信 (1) 情報発信の強化 ■基本目標 4 : だれもが住みやすいまちをつくる (基本目標 4 第 2 節にも掲載) (P38) ・施策 4 : 地域づくりの推進 (2) 地域資源の有効活用	

評価項目 : I-6-1

1. まちづくり計画の評価【担当課】

現状 (実現度)	一部実現できている
現状 (具体)	・法令に基づき適切に賦課はできているが、納税において滞納者への働きかけに課題がある。 ・公共施設、施設設備、インフラの更新や大規模改修があり町債残高は増加している。また、地域医療の確保に財源が必要な状況である。 ・地方公会計制度による財務書類・固定資産台帳の整備を進めている。また、組織再編の検討、人材育成研修の実施、文書管理体制の運用、ふるさと納税の拡充などに取り組んでいる。ふるさと納税は寄附額が増加している。
外部要因	・納税者の納税意識の希薄化。 ・物価高騰、賃金水準の上昇、金利上昇などにより行政運営コストが増加している。また、ふるさと納税制度の普及やポータルサイトの拡大など制度環境の変化も影響している。 ・人材育成については、外部研修機関における管理職向け研修機会の不足が課題となっている。
内部要因	・部署間の情報共有、共同徴収など改善の余地がある ・公債費の増加や地域医療確保に伴う財政負担、新規事業等の財源確保に苦慮している。また、職員の研修受講機会に偏りがあることや、情報管理に対する意識・運用のばらつき、紙文書と電子文書の管理体系の不統一がある。 ・ふるさと納税ではポータルサイト運用や事務集約化などの取り組みが進んでいる。
施策が機能しているか (評価) ※1	一部機能している
理由 (機能)	・夏季冬季の徴収強化機関における共同臨戸や電話催告は一定の効果がみられるが、高額滞納者への取り組みに課題がある。 ・外部要因、内部要因、政策等により歳出抑制につながっていない。地方公会計制度による財務情報の整備や職員研修、文書管理、ふるさと納税の寄附額増加などの成果が見られる。 ・ふるさと納税の事務コスト増加などにより、施策効果が限定的となっている。
方向性※2	維持
理由	・各課の徴収担当と連携を密にして動くことで、滞納者に対して、効率的かつ効果的に接することができ、納税につながることが期待できる。

	・財政健全化、組織再編、人材育成、情報管理体制の見直しと、ふるさと納税の効率化を進める。
--	--

※1：機能している・一部機能している・機能していない の3段階

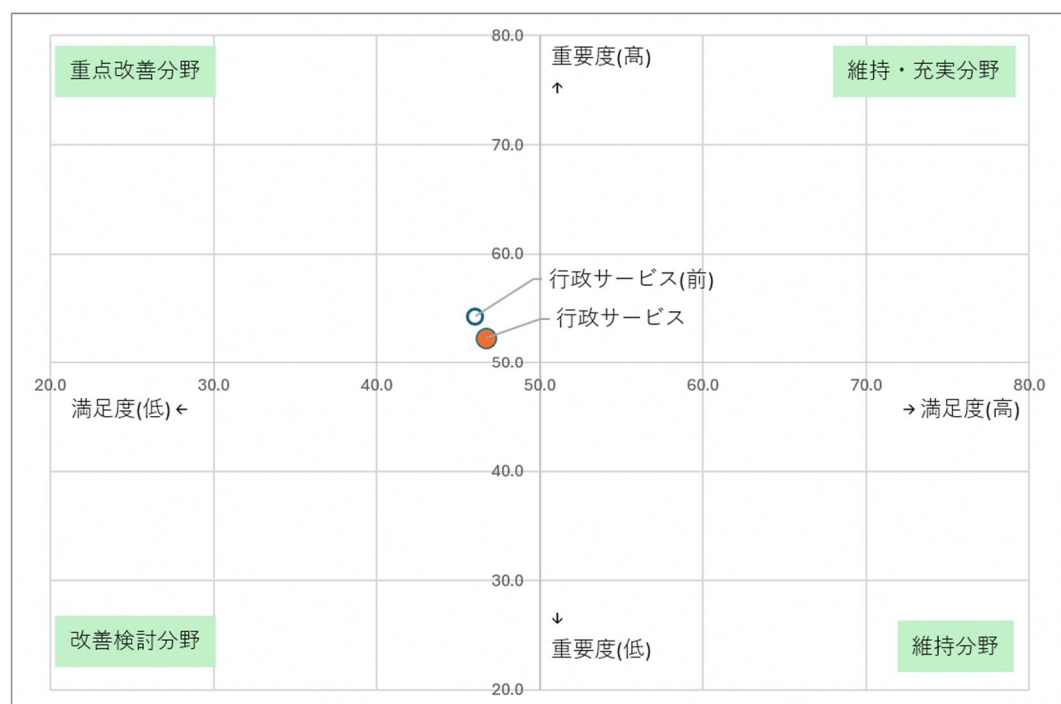
※2：強化・維持・縮小の3段階

2. 住民アンケート結果

<該当するアンケート項目>

項目名	満足度数			重要度数		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減
IX-6.住民に便利な行政サービス	-0.73	-1.01	0.28	5.69	6.33	-0.64
平均	-0.73	-1.01	0.28	5.69	6.33	-0.64

<満足度偏差値・重要度偏差値>



3. 総合戦略 KPI 評価【担当課】

関連 KPI 指標	目標	実績	評価
ふるさと納税金額	6,500 万円	6,264.1 万円	B (概ね達成)
町内遊休施設を活用する取り組み	3 事例	1 事例	C (未達成)

4. 評価結果（一覧）

評価項目	結果	コメント
満足度数	-0.73	点数では前回比+0.28 と上昇している。
重要度数	5.69	点数では前回比-0.64 と低下している。
満足度・重要度偏差値	重点改善	関連する項目は、重点改善分野に位置している。重要度はやや低下し、満足度は概ね横ばいとなっている。
KPI	B（概ね達成） C（未達成）	KPI は概ね達成と未達成の項目がある。

5. 庁内評価（※適切・概ね適切・改善が必要・見直しが必要の4段階）

評価	コメント
改善が必要	満足度数は前回より向上しているものの、重点改善分野に位置していることから、税収確保及び徴収率改善の取り組みと、住民ニーズを踏まえた行政サービスの充実・改善が必要である。

6. 委員会評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

II 第2期吉賀町総合戦略 基本目標・数値目標評価

【基本目標1：暮らしの基盤となるしごとをつくる】(P20)

基本的方針

1. 働く場を増やす

農林業の振興や起業・創業の支援、企業誘致等を通じて町内に働く場を増やし、雇用を創出します。

2. 魅力的な仕事、稼げる仕事を増やす

新商品開発や販路の拡大、ブランディングによって町内産品の付加価値を向上させ、住民所得の向上につなげます。

多様な働き方が認められる環境を整備し、住民一人一人が充実感を持って働くことができるまちを目指します。

評価項目：Ⅱ-1

<数値目標>

指標	現状値	目標値	実績値	備考
就業者数	2,632 人	2,632 人	2,406 人	現状値：平成 28 年調査結果 目標値：令和 8 年度末時点の最新調査結果 実績値：令和 3 年経済センサス活動調査

■庁内評価

①基本目標に係る数値目標の実績評価【担当課】

評価	C（未達成）
外部要因	全国的な人口減少に伴う労働力人口の都市集中
行政の関与状況	吉賀町新規雇用促進助成金による支援を実施している。
コメント（実績）	就業者数は 5 年前の統計から約 9%減少している。全国的な人口減少に伴う労働力人口の都市集中が進んでおり、外部要因の影響が大きいと思われる。

②数値目標の妥当性評価【担当課】

数値目標の妥当性	コメント（KPI）
○（妥当・継続）	就業者数は「暮らしの基盤となるしごと」に直結する数値であり、妥当と考える。

■委員会評価

①基本目標の評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

②数値目標の評価

評価	意見・コメント
☐ 妥当であり、継続が適当 ☐ 概ね妥当であるが、一部見直しが必要 ☐ 妥当とは言えず、見直しが必要	

【基本目標 2：暮らしの場として多くのひとに選ばれる】（P25）

基本的方針

1. 吉賀町の知名度を上げる

情報発信の充実により、吉賀町を多くの人に知ってもらうことに努めます。

2. 関係人口・交流人口を増やす

来町費用の補助やイベント開催を通じて吉賀町の交流人口を増やします。

サクラマスプロジェクトを中心とした取り組みを通して、地域への愛着を育み、吉賀町が戻ってくる町に選ばれることに繋がります。

3. 暮らしの環境を整備する

空き家整備や就業場所の確保等を通じて移住・定住に繋がります。

4. 環境に配慮した社会の形成

自然エネルギー等の再生可能エネルギーの活用により、脱炭素社会への取り組みや地球温暖化対策を推進します。

ごみの減量化・再資源化を推進します。

評価項目：II-2

<数値目標>

指標	現状値	目標値	実績値	備考
人口の社会増減	—	+15 人／年	-35 人／年	目標値：R4～R8 の平均値 実績値：R4～R7 の平均値

■庁内評価

①基本目標に係る数値目標の実績評価【担当課】

評価	C（未達成）
外部要因	全国的な人口減少と都市部への人口集中
行政の関与状況	情報発信、移住定住支援、交流人口の創出に向けた施策を実施している。
コメント（実績）	大幅に目標値を下回る実績となっている。県外への転出が多くなっている。退職や家族の事情、転職、就学等による県外転出が多い傾向がある。

②数値目標の妥当性評価【担当課】

数値目標の妥当性	コメント（KPI）
△（見直しが必要）	現計画策定年度においても社会増減は-94 人となっており、平均+15 人の設定は、実態を踏まえれば実現可能性の低い KPI となっている。

■委員会評価

①基本目標の評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

②数値目標の評価

評価	意見・コメント
☐ 妥当であり、継続が適当 ☐ 概ね妥当であるが、一部見直しが必要 ☐ 妥当とは言えず、見直しが必要	

【基本目標3：結婚・出産・子育ての希望をかなえる】(P30)

基本的方針

1. 結婚への支援

出会いの機会創出、経済的な支援を通じた結婚への支援で婚姻数を上昇させます。

2. 出産・子育ての支援

出産、子育てを経済、周辺環境整備の両面から支援します。

評価項目：Ⅱ-3

<数値目標>

指標	現状値	目標値	実績値	備考
出生数	—	150 人	113 人	目標値：5 年間計 実績値：R 4 ～R 7

■庁内評価

①基本目標に係る数値目標の実績評価【担当課】

評価	C（未達成）
外部要因	若年人口の減少、初産婦の減少
行政の関与状況	結婚新生活支援事業による結婚新生活の支援、各種健診費用等助成、助産師を中心とした相談等支援、保育料、給食費、医療費の無償化、一時預かり事業や病後児保育の実施
コメント（実績）	各種事業を展開し、結婚・出産・子育て等各種支援の充実を図ったが、出生数は減少傾向にあり目標を達成することは難しい。

②数値目標の妥当性評価【担当課】

数値目標の妥当性	コメント（KPI）
△（見直しが必要）	結婚・出産・子育ての希望をかなえる町というのは単純に出生数では表せないため KPI の見直しが必要と考える。

■委員会評価

①基本目標の評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

②数値目標の評価

評価	意見・コメント
☐ 妥当であり、継続が適当 ☐ 概ね妥当であるが、一部見直しが必要 ☐ 妥当とは言えず、見直しが必要	

【基本目標4：だれもが住みやすいまちをつくる】(P33)

基本的方針

1. 交通や医療福祉の支援を充実

交通や医療福祉を充実させ、安心して暮らせるまちづくりを進めます。

2. 情報通信基盤等の環境整備

高度情報社会に対応するための取り組みを推進します。

3. 協働のまちづくりの推進

住民と行政が協働してまちづくりを進める体制を構築します。

4. 人権が尊重されたまちづくりの推進

すべての人にとって住みやすいユニバーサルデザインのまちづくりを推進します。

多様性を互いに認め、人権を尊重することができる人権感覚を磨きます。

評価項目：II-4

<数値目標>

指標	現状値	目標値	実績値	備考
住民アンケートで「吉賀町に住み続けたい」と回答した町民の割合	66.8%	80%	67.1%	現状値：令和3年調査時点 目標値：令和8年度末時点の最新調査結果 実績値：令和7年度実施調査結果

■庁内評価

①基本目標に係る数値目標の実績評価【担当課】

評価	C（未達成）
外部要因	様々な要因が関係していると考えられることから特定することは難しい
行政の関与状況	住みやすいまちづくりにむけ各施策を実施した
コメント（実績）	前回調査（5年前）と比較してほぼ同じであった

②数値目標の妥当性評価【担当課】

数値目標の妥当性	コメント（KPI）
△（見直しが必要）	指標としては妥当であるが、数値確認の頻度が5年に1度となることが課題である。

■委員会評価

①基本目標の評価

評価	意見・コメント
☐ 庁内評価は適切 ☐ 庁内評価は概ね適切 ☐ 庁内評価の改善が必要 ☐ 庁内評価の見直しが必要	

②数値目標の評価

評価	意見・コメント
☐ 妥当であり、継続が適当 ☐ 概ね妥当であるが、一部見直しが必要 ☐ 妥当とは言えず、見直しが必要	

Ⅲ 吉賀町総合戦略 地方創生関連交付金活用事業評価

吉賀町総合戦略・地方創生関連交付金活用事業評価シート

評価項目：Ⅲ-1

新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）事業実績

事業名	産官学で連携した島根を創る人づくりプロジェクト～育成・還流・定着～				事業計画期間	R7-R9年度		
申請者	島根県ほか17自治体（吉賀町含む）				事業類型	ソフト事業		
目的・効果	・産学官や地域が連携して若者の県内定着につながる環境を整えることで、若者がふるさと島根に定着し、産業や企業の担い手として、また地域の生活を維持するための担い手として活躍する人材になることを目指す。 ・県内企業の魅力向上及び採用力強化を図ることで、若者に選ばれる企業づくりを促進し、県内定着（「還流」）につなげる。							
【申請者全体】 交付対象事業の 重要業績評価指標 （KPI）	評価指標項目				単位	開始時（R6年度）	R7年度・計画	R7年度・実績
	①	20代のUIターン者数			人	909	914	1,034
	②	首都圏・関西圏における学生及び若手社会人のコミュニティ参加人数			人	100	105	150
	③	県内企業の採用計画人数の充足率			%	62.20	64.00	63.46
	④	就業体験（短期仕事体験）の受入企業数			社	113	113	115
	⑤	県外の移住相談窓口（東京・大阪・広島）における移住相談者数			人	629	650	970
	⑥	無料職業紹介システムを介した県内就職者数			人	337	339	355
【申請者全体】 事業概要／ 交付金額 （交付率1/2） ※端数調整あり	ソフト事業名				関連するKPI	R7年度	R8年度	R9年度
	1. 島根と関わる機会創出の拡大				① ②	101,502千円		
	2. 県内企業の採用力強化				① ②	22,278千円		
	3. 就職マッチング力の強化				① ⑤ ⑥	65,630千円		
	4. 1～3にかかる一体的な取組の強化				①～⑥	7,134千円		
【吉賀町】 事業概要 （実績事業費）	ソフト事業名					R7年度	R8年度	R9年度
	1. 島根と関わる機会創出の拡大 - 島根と関わる場づくり・関わる人づくり							
	地元出身者が母校や生まれ育った地域とつながり続ける市町村事業		県出身者との継続的な関わり方の創出を担うコーディネート人材の配置			9,167,440円		
			地元出身者を対象とした交流・体験プログラムの企画・実施			760,119円		
			情報誌制作・SNS等を通じた暮らしの魅力発信			996,000円		
	3. 就職マッチング力の強化 - 県内の求人情報の発信・提供							
	地元企業への就職マッチングの強化に取り組む市町村事業		地元企業と地元出身者との就職マッチングを狙ったプログラムの企画・実施			1,626,690円		
【吉賀町】 対象事業費 財源内訳 （単位：円）	年度	総事業費	財源内訳					
			地方創生交付金	地方債	その他	一般財源		
	R7	12,550,249	6,275,124	0	2,622,000	3,653,125		
	R8	-	-	-	-	-		
	R9	-	-	-	-	-		
【吉賀町】 事業実績 に対する検証	これまでの取組と今後の課題				今後取り組むべきこと			
	・高大連携事業等で、島根と関わる機会創出の拡大に寄与した。 また、町公式LINE登録者はR7年度末で2,552件（R6年度末1,200件）となり情報発信効果が拡大した。 今後、関わり方の創出・継続につながる内容の充実が求められる。 ・企業採用力強化事業で、町内企業の採用活動促進に寄与した。企業によっては採用活動に不慣れな状況もあり、実行に向けた支援が求められる。				・町出身者とのつながりが継続できるよう、SNSを始め各方面から情報発信していくと同時に、関わり場の場や発信内容の充実を図る。 ・企業の採用活動実行につながる取り組みを行う。 ・R9年度まで当事業を継続する。			
委員コメント								